

竹芝 Marine-Gateway Minato ビジョン

令和 4 (2022) 年 3 月

竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会

目次

1	はじめに	01
	1-1 これまでの経緯	01
	Column 1：社会の潮流	02
	Column 2：「竹芝地区まちづくりガイドライン」	03
	1-2 ビジョン策定の目的	04
	1-3 活動の中心とするエリア	04
	1-4 ビジョンの位置づけ	06
2	竹芝エリアの現状と期待	07
3	竹芝未来図	12
	3-1 まちづくりの方向性	12
	Column 3：SDGs とは	13
	(1) 公共空間活用	14
	(2) 島しょ振興	15
	(3) 文化芸術振興	16
	(4) スマートシティ推進	17
	(5) PR 活動（情報収集・発信）	18
	3-2 めざすエリアの将来像	19
4	竹芝未来図の実現に向けた施策とロードマップ	21
	4-1 分野別施策	21
	(1) 公共空間活用	21
	Column 4：Power of 10+とは	23
	(2) 島しょ振興	27
	(3) 文化芸術振興	31
	(4) スマートシティ推進（Smart City Takeshiba）	33
	(5) PR 活動（情報収集・発信）	36
	Column 5：活用する制度の紹介	38
	4-2 ロードマップ	39
5	実施体制	40
	5-1 官民連携の推進体制と役割	40
	5-2 ビジョン実現のための持続可能な仕組み	41
参	参考資料	42
	I. 上位計画に記載されている主な内容	42
	II. 竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会	45

1

はじめに

1-1 これまでの経緯

竹芝エリアは、東京湾に臨むウォーターフロントに位置し、わが国における業務・金融等の拠点である大手町・丸の内・日本橋エリアや、東京と国内各所を結ぶ交通拠点である品川エリアと「JR 線」で結ばれ、東京国際空港（以下、羽田空港）にアクセスできる「東京モノレール羽田空港線（以下、東京モノレール）」の起点であるとともに、都心と臨海地区を結ぶ「東京臨海新交通臨海線（以下、ゆりかもめ）」の駅が立地する交通至便なエリアです。また、世界自然遺産を有する東京都の島しょ地域である伊豆諸島・小笠原諸島（以下、東京諸島）への玄関口である「竹芝客船ターミナル」も立地し、東京都心における陸海空の交通結節点として高いポテンシャルを有するエリアと言えます。

一方で、江戸時代の埋め立てにより生まれた旧芝離宮恩賜庭園の周囲には、明治末期から始められた隅田川河口改良工事により埋め立てられた経緯から公有地が広がり、多くの事業所が立地することから、住民が少なく、町会活動も近年は休止していました。

そこで、東京都は「竹芝地区まちづくりガイドライン」を策定し、竹芝エリアの活性化を目指すこととしました。東京の国際競争力強化に資する拠点として、東京都が進める「都市再生ステップアップ・プロジェクト（竹芝地区）」を契機に、エリアマネジメントに係る各種活動を行っていきこととなりました。平成 26（2014）年に地元の地権者が中心となり協議・検討を進めていく「竹芝地区まちづくり協議会」が設立されました。平成 29（2017）年 3 月には事業運営の実践の主体となる「一般社団法人竹芝エリアマネジメント」が設立され、「竹芝地区まちづくり協議会」と両輪体制で事業の推進が図られてきました。

その後、官民連携の取組として、港区と一般社団法人竹芝エリアマネジメント、当エリアにかかわる企業や学校など多様な主体が集結し、浜松町駅周辺から竹芝ふ頭に至るエリアが有する資源・資産を最大限に活用し、ブランディング確立・魅力向上、さらなる連携強化を目的に、官民連携プラットフォーム「竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会（以下、MGM）」を令和 2（2020）年 5 月に設立しました。



竹芝 Marine-Gateway
Minato 協議会

このロゴは、官と民が協働し中心的な役割を担い、多様な主体を巻き込んで、多くの魅力創出プロジェクトを紡ぎ上げていく様子を表現しています。

MGM ロゴ



竹芝全景

Column1：社会の潮流

○官民連携まちづくりの推進

国土交通省は、エリアの価値を高める取組として、官民連携のまちづくりを推進しています。そのカギを握るのが次の3点です。

- ・地域独自の課題を発見し解決する
- ・官民にかかわらず、まちの空間資源を使いこなす
- ・人間中心の視点で居心地よい環境をつくる

そして、これらの活動を支援するため、「居心地良く歩きたくなるまちなか」の形成をはじめ、多様な人材の集積や様々な民間投資を惹きつけ、都市の魅力や国際競争力の向上を目的とした取組を支援する「官民連携まちなか再生推進事業」などが進められています。

これらの制度活用や支援事業の取組により、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活が実現し、まちの魅力・国際競争力の向上へとつながり、内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環を生み出します。

参考：「官民連携まちづくりポータルサイト」（国土交通省都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室）

○Society5.0

新技術や各種データを活用したデジタル化の取組は、従来の発想にはないシステムの効率化、サービスの提供等を可能とし、各種の社会課題を解決する可能性を有しています。国では、新技術や各種データ活用をまちづくりに取り入れたスマートシティの推進を、Society5.0、ひいてはSDGsの達成の切り札として強力に推進しています。

参考：「スマートシティガイドブック」2021.04.VER.1.00（内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省）

○ニューノーマルなまちづくり

令和元（2019）年からの新型コロナ危機を踏まえても、都市という場の重要性や都市における機能の集積の必要性は変わらず、今後の都市づくり・まちづくりにおいて、都市の国際競争力強化、ウォークアブルなまちづくりによる魅力向上、コンパクト・プラス・ネットワークの推進、スマートシティの推進に取り組んでいくという大きな方向性には変わりはありません。その上で、都市の持つ集積のメリットを更に伸ばす取組を進めつつ、新型コロナ危機を契機として生じた変化に対応し、次に挙げるようなまちづくりを進めていくことが必要とされています。

- ・職住近接のニーズが高まる可能性があることを踏まえ、大都市、郊外、地方都市それぞれの特性を活かしつつ、働く場と居住の場の融合に対応したまちづくりを進め、都市の魅力や国際競争力を高める
- ・柔軟性、冗長性を備えたまちづくり
- ・様々なオープンスペースを柔軟に活用しつつ、ネットワークを形成することでウォークアブルな空間を充実させる
- ・リアルタイムデータ等を活用し、ミクロな空間単位で人の動きを把握して、平時・災害時ともに過密を避けるよう人の行動を誘導する

出典：「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」令和2（2020）年8月（国土交通省都市局）

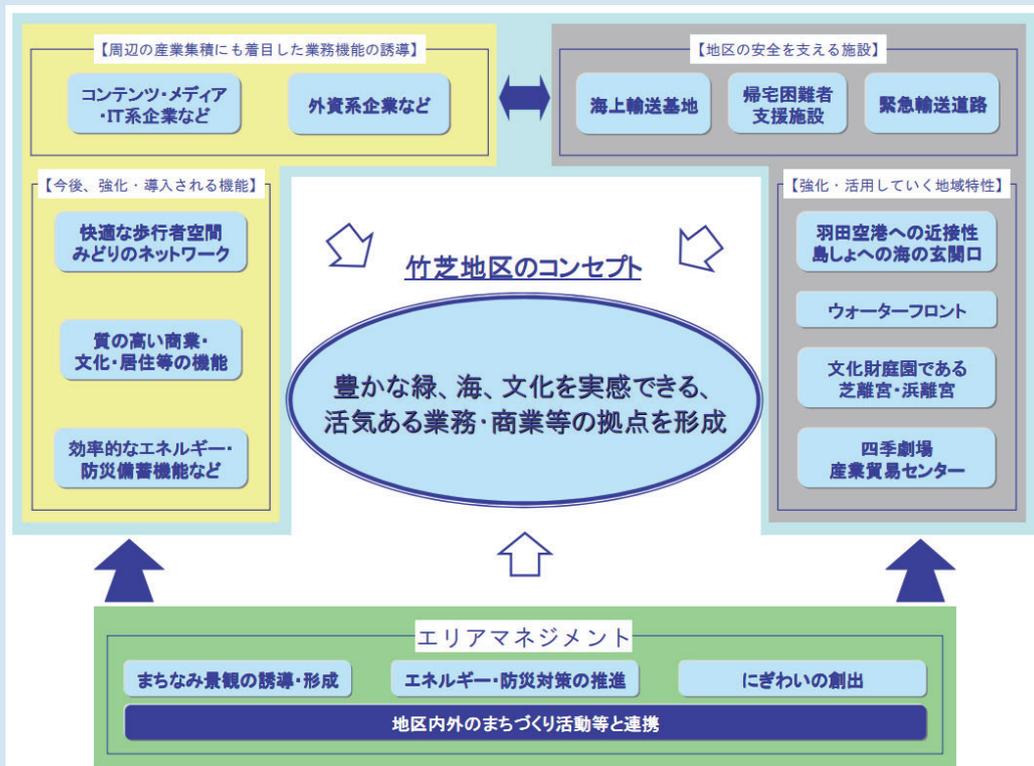
Column2 : 「竹芝地区まちづくりガイドライン」

東京都都市整備局は「竹芝地区まちづくりガイドライン～豊かな緑、海、文化を実感できる、活気ある業務・商業等の拠点を形成～」を平成 22 (2010) 年に策定しています。[平成 24 (2012) 年 7 月、改訂]

●竹芝地区が目指すまちづくりコンセプト

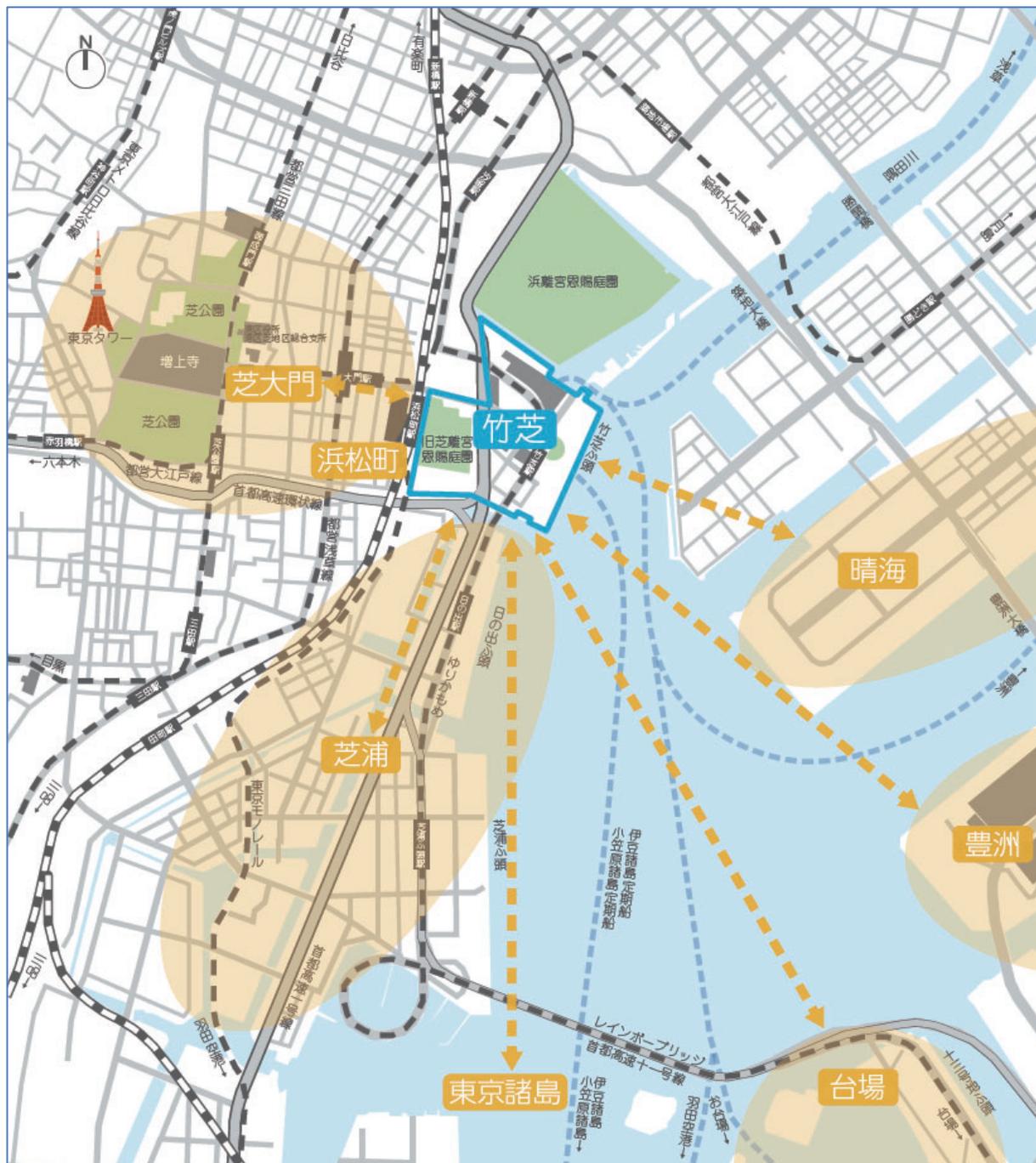
特定都市再生緊急整備地域、アジアヘッドウォーター特区の指定を踏まえ、周辺の開発動向や環境にも配慮しつつ、国際競争力の強化に資する開発を推進することにより、「豊かな緑、海、文化を実感できる、活気ある業務・商業等の拠点を形成」する。

また、地区内に存在する帰宅困難者支援施設等の防災機能に加え、建築物の建替えなどによる機能更新に伴う都市防災機能の強化により、帰宅困難者の支援等を図るとともに、低炭素で高効率なエネルギー利用を推進するなど、地区内外のまちづくり等とも連携した防災対応力を備えたスマートシティの実現に向けた取組を推進する。



出典：「(1) 都市再生ステップアッププロジェクト (竹芝地区)」(東京都都市整備局)

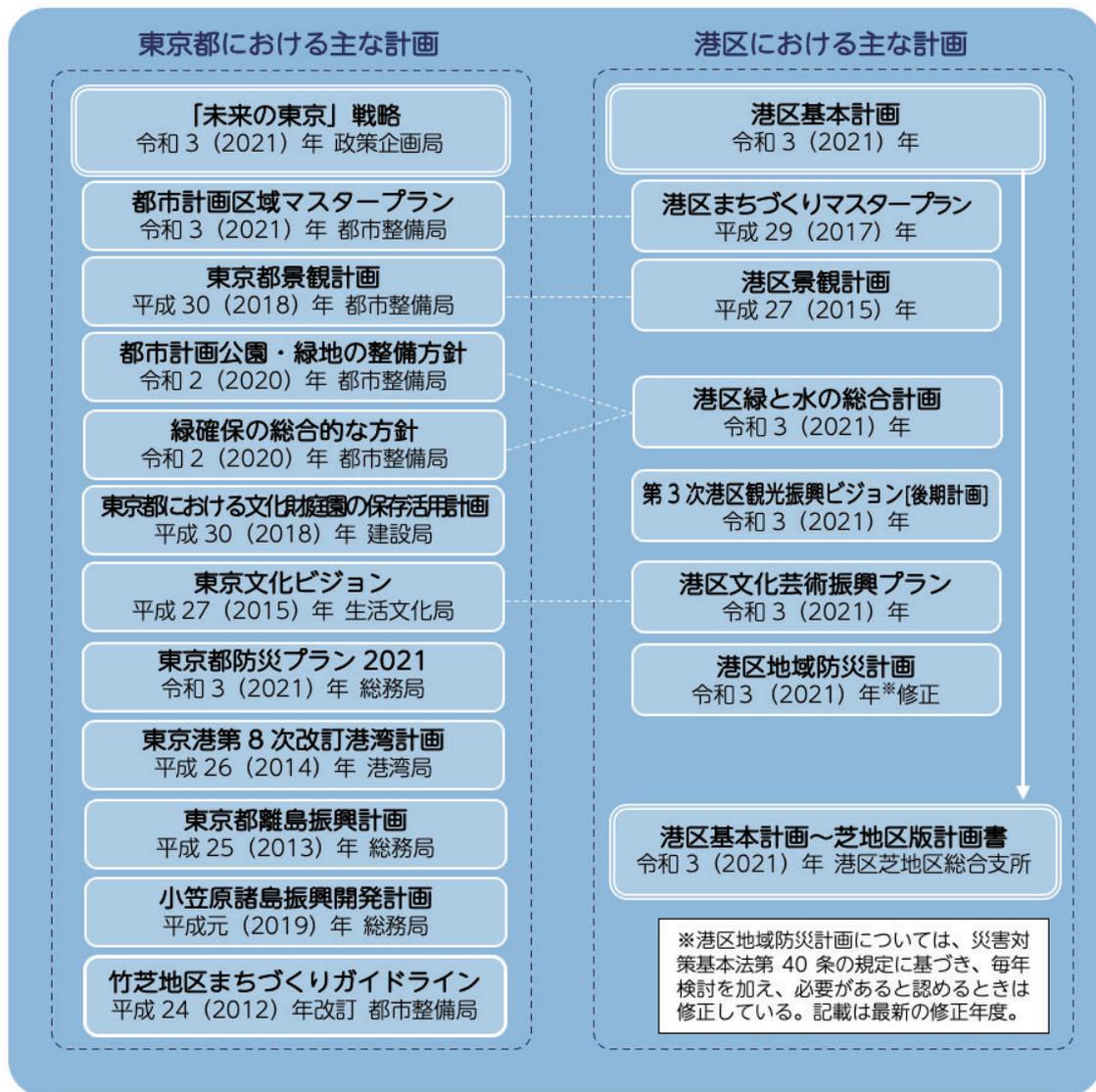
広域エリアマップ



1-4 ビジョンの位置づけ

「竹芝 Marine-Gateway Minato ビジョン」は、社会の潮流や現在のまちづくりの動向、東京都及び港区の諸計画を踏まえ、竹芝エリアにおいて官民が連携して持続的なまちづくり活動の指針として策定しました。

まちづくり分野において、「港区まちづくりマスタープラン」が主にハード面の方針を担っているのに対し、本ビジョンは主にソフト面の取組を中心としたまちづくりの方向性を示すことにより、竹芝エリアにおける多様な主体によるアクティビティを支える仕組みとして機能することを期待します。



随時、整合を図る

竹芝 Marine-Gateway Minato ビジョン

竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会

2

竹芝エリアの現状と期待

竹芝エリアは、三方を汐留川・古川・東京湾に囲まれたウォーターフロントであり、東京諸島への玄関口である竹芝ふ頭、旧芝離宮恩賜庭園（都立庭園、名勝）が立地しています。また、エリア北側には浜離宮恩賜庭園（都立庭園、特別名勝・特別史跡）が存在し、水辺と2つの緑豊かな文化財庭園に囲まれたエリアです。

もともとこのエリアは、明治初期から大正末期にかけての埋立事業で生み出された土地であり、道路空間・河川区域・港湾区域といった公有地が占める割合が高いエリアでした。

1990年代からスタートした都営地下鉄大江戸線、ゆりかもめの交通インフラ整備と併せ、竹芝客船ターミナルとホテル・オフィス施設の整備が進み、汐留、品川・田町エリア等周辺エリアにおける開発動向等を背景としてエリア内においても都市開発の気運が高まりました。

近年では、エリア内の都有施設や老朽施設の再編・更新が進み、令和2（2020）年には東京ポートシティ竹芝とウォーターズ竹芝という大規模施設が開業するなど、新しいまちに変化を遂げました。東京ポートシティ竹芝では、同施設を中心として、デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の実現に向けた「Smart City Takeshiba（スマートシティ竹芝）」が展開されています。また、令和2（2020）年9月には隣接する浜松町・芝浦エリアとともに東京のMICE*開催の新たな拠点として「東京ビジネスイベント先進エリア」に指定され、令和3（2021）年9月より「DMO*芝東京ベイ」が誘致活動を行っています。さらに、ウォーターズ竹芝内には四季劇場が再整備されるとともに、令和9（2027）年度には隣接する浜松町二丁目地区において港区立「（仮称）文化芸術ホール」が開館予定であり、東京の新たな文化発信拠点としても期待されているエリアです。

※MICE

M：Meeting（企業等の会議）、
I：Incentive Travel（企業等の行う報奨・研修旅行）、
C：Convention（国際機関・団体、学会が行う国際会議）、
E：Exhibition/Event（展示会・見本市、イベント）
の頭文字をとった造語。これらビジネスイベントの総称

※DMO（Destination Management/Marketing Organization）

観光施設、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人、組織のこと

竹芝エリアの現状、今後期待されることは次のように整理されます。



東京モノレール



竹芝地区船着場



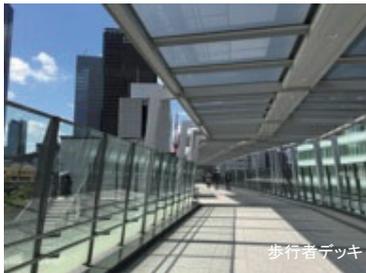
東京水辺ライン



東海汽船「さるひあ丸」



島じまん



歩行者デッキ

①都心や羽田空港へのアクセス性に優れた立地

- 広域的には、国際金融・ビジネスの中核業務拠点である大手町・丸の内・有楽町地区、東京と全国各地を結ぶ交通結節点である品川など、国際競争力の高い拠点に囲まれた立地特性を有しています。
- 東京の空の玄関口である羽田空港と東京モノレールで結ばれ、国際化の進む羽田空港へのアクセス性に優れたエリアです。この恵まれた立地を更に活用していくことが期待されます。

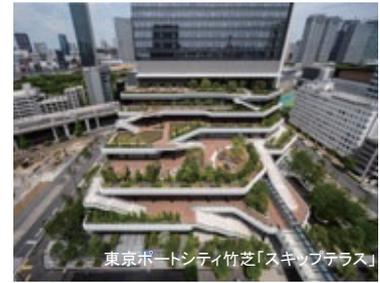
②交通インフラの結節点

- JR線に加え、羽田空港とつながる東京モノレール（浜松町駅）、下町や山の手とつながる都営地下鉄大江戸線・浅草線（大門駅）、臨海部とつながるゆりかもめ（竹芝駅）等、都内各所へのアクセスが容易な公共交通網が整備され、高い交通利便性を有しています。
- 東京臨海部や内陸部への海上・水上交通機能を持つ日の出頭・棧橋に隣接するとともに、エリア内に竹芝小型船発着所（竹芝小型船ターミナル）があり、新たに整備された竹芝地区船着場（ウォーターズ竹芝前）からは、豊洲、両国、浅草、お台場、葛西臨海公園を結ぶ水上バス、羽田空港へのリムジンボートが発着しています。
- 竹芝客船ターミナルは、東京諸島と本州を結ぶ海上航路の発着点です。本州からは竹芝を起点とする海運でしかアクセスできない島もあり、島への物流・人流の要所となっています。
- 竹芝棧橋・竹芝客船ターミナルでは2年に一度、東京諸島の特産品や自然・文化等の魅力発信イベント東京愛らんどフェア「島じまん」が開催されるなど、竹芝エリアが都市部と東京諸島をつなぐ拠点となって、東京諸島への興味の拡大、交流人口の増加が期待されています。コロナ禍をきっかけとしたワーケーションの浸透や二拠点居住の促進等、自然に囲まれた拠点需要の高まりを活かしつつ、浜松町駅・竹芝駅を出た時に島を感じられる、ワクワク感のあるまちづくりが期待されます。

③開発計画に伴うまちの生まれ変わり

- 平成 22（2010）年頃より機能更新時期を迎えたビルの建替えの動きが活発になりました。特に令和 2（2020）年以降、大規模開発と同時に歩行者デッキや干潟・船着場等の社会基盤も新たに整備されるなど、まち全体が生まれ変わりつつあります。
- これらの大規模再開発計画の完成に伴い、エリア内の就業者や居住者が増えています。老朽化マンションの建替えも順次進められており、今後更なる居住者の増加が期待されます。

○東京都の都市再生ステップアップ・プロジェクト（竹芝地区）の一環として、島しょ振興やエリアマネジメント等、ハードだけでなくソフトの取組が官民連携で推進されており、多様なステークホルダーを巻き込んだ幅広い活動の展開が期待されます。



④多様なオープンスペース

○竹芝エリアは河川（汐留川と古川）と東京湾に囲まれ、竹芝ふ頭等、大規模な公共空間があり、近年では、汐留川河口に竹芝干潟も整備され、東京湾の生態系を保全・観察できるようになりました。



○一方、東京ポートシティ竹芝のスキップテラス、ウォーターズ竹芝のプラザ（広場）等開発計画に併せて整備された特徴ある緑化空間や公開空地、ビル内の通路等、自由に入出りできる空間が多いエリアとなっています。竹芝みなと通りの街路樹や東京諸島のオブジェ、竹芝シアター通りに面した都立芝商業高等学校脇の植栽帯等、特徴的な植栽空間があります。



○竹芝みなと通りに沿って歩行者デッキが整備され、羽田空港へ直結する浜松町駅と東京諸島へつながる竹芝ふ頭を結ぶ全長約 500m、幅員 6m のバリアフリー動線となっています。

○竹芝客船ターミナルのデッキや中央広場で開催される地域コミュニティイベント「竹芝夏ふえす」等、オープンスペースを活用したイベントも開催されています。また、芝大神宮の例大祭「だらだら祭り」に竹芝エリアとして数十年ぶりとなる参加も実現しています。



⑤豊富な歴史・景観・環境資源

○エリア内の旧芝離宮恩賜庭園とエリアに隣接する浜離宮恩賜庭園の2つの文化財庭園が存在し、三方を汐留川・古川・東京湾に囲まれ、「東京都景観計画」及び「港区景観計画」において「浜離宮・芝離宮庭園景観形成特別地区」や「水辺景観形成特別地区」に指定された貴重な歴史・景観資源に恵まれています。



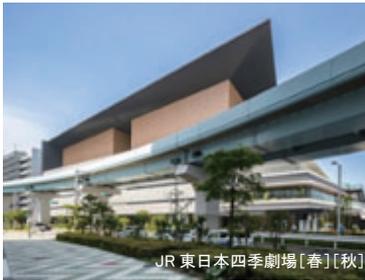
○ウォーターズ竹芝の汐留川河口に整備された竹芝干潟では、都心から近い水辺として東京湾の生態系を守るサステイナブルな取組が行われています。

○東京湾や運河・河川等、多彩な水辺空間が広がるウォーターフロントの開放的な景観や、東京タワーやベイエリアのタワーマンション、レインボーブリッジ等、都心の夜景を楽しむエリアです。





竹芝干潟



JR 東日本四季劇場 [春] [秋]



東京ポートシティ竹芝「ポートホール」



メスム東京、オートクラブ コレクション



新たなモビリティサービス (実証実験)



自律移動型警備ロボット「SQ-2」

⑥新旧織り交ぜた文化・芸術資源

- 江戸時代の大名庭園である旧芝離宮恩賜庭園のほか、劇団四季の専用劇場である JR 東日本四季劇場 [春] [秋] 等、文化・芸術を肌で感じることでできる施設が立地しています。旧芝離宮恩賜庭園ではライトアップイベントが開催され、文化財庭園の更なる魅力が発信されています。
- 東京ポートシティ竹芝のオンライン配信設備が充実したホールやスタジオ、ウォーターズ竹芝内、アトレ竹芝のコミュニケーション創出に特化したコミュニティ・レンタルスペース等、時代のニーズに合った施設が整備されています。
- 令和 9 (2027) 年度には隣接する浜松町二丁目地区に港区立「(仮称)文化芸術ホール」が整備される予定であり、東京の新たな文化発信拠点としても期待されています。
- さらに、ウォーターズ竹芝内、アトレ竹芝のダイアログ・ミュージアム「対話の森」は、五感の豊かさを感じるソーシャルエンターテインメントを体験できる特徴ある施設です。
- その他、アートギャラリーやデジタルアート企業等、まちの各所に文化芸術の要素を持つ施設のほか、アートを取り入れたラグジュアリーホテルやビジネスホテルもエリア内にあります。

⑦時代の一步先を行くスマートシティ

- 竹芝エリアでは、「スマート東京」の実現に向けた「Smart City Takeshiba」が推進されています。東京都と連携した、ロボット分野の先端テクノロジーの実証実験「Tokyo Robot Collection」、新たなモビリティサービスのための「MaaS*の社会実装モデル構築に向けた実証実験」、国土交通省と連携して整備した 3D 都市モデル「バーチャル竹芝」を活用するサービス開発など最先端テクノロジーの実証実験がすでに実施されており、実証実験のフィールドとしての地位を確立しつつあります。
- 東京ポートシティ竹芝では、様々な IoT センサーが設置され自動走行ロボットが館内を巡回するなど、スマートビルの機能が実装されています。今後このような機能が竹芝エリア全体に展開されることにより、東京のスマートシティをけん引するエリアとして発展することが期待されています。

※MaaS (Mobility as a Service)

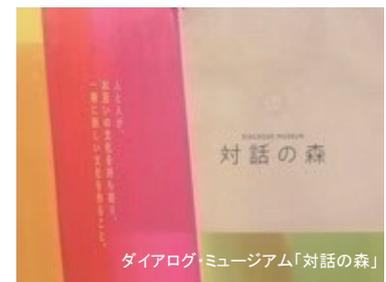
地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて、検索・予約・決済等と一括サービスで行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外サービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。

⑧多様な人材の集積

- 竹芝エリアは、様々な業種の就業者、学生、居住者、商業施設・文化芸術施設・納涼船・展示会等を目的とした来街者、東京諸島へ向かう渡航者等、多様な方々が活動するまちです。
- 東京のビジネス国際拠点である東京ポートシティ竹芝には、オールジェンダートイレや祈祷室が設置され、またウォータースタジアム内、アトレ竹芝には、「世代。ハンディキャップ。文化。宗教。民族。世の中を分断しているたくさんのものを、出会いと対話によってつなぎ、ダイバーシティを体感するミュージアム。」を掲げるダイアログ・ミュージアム「対話の森」があるなど、竹芝エリアはダイバーシティ&インクルージョンに取り組んでいます。
- 多様な方々が互いに交わり共創するまちを実現することは、新たな価値創造の可能性を秘めています。



スキップテラスの水田で稲刈りをする子どもたち



ダイアログ・ミュージアム「対話の森」

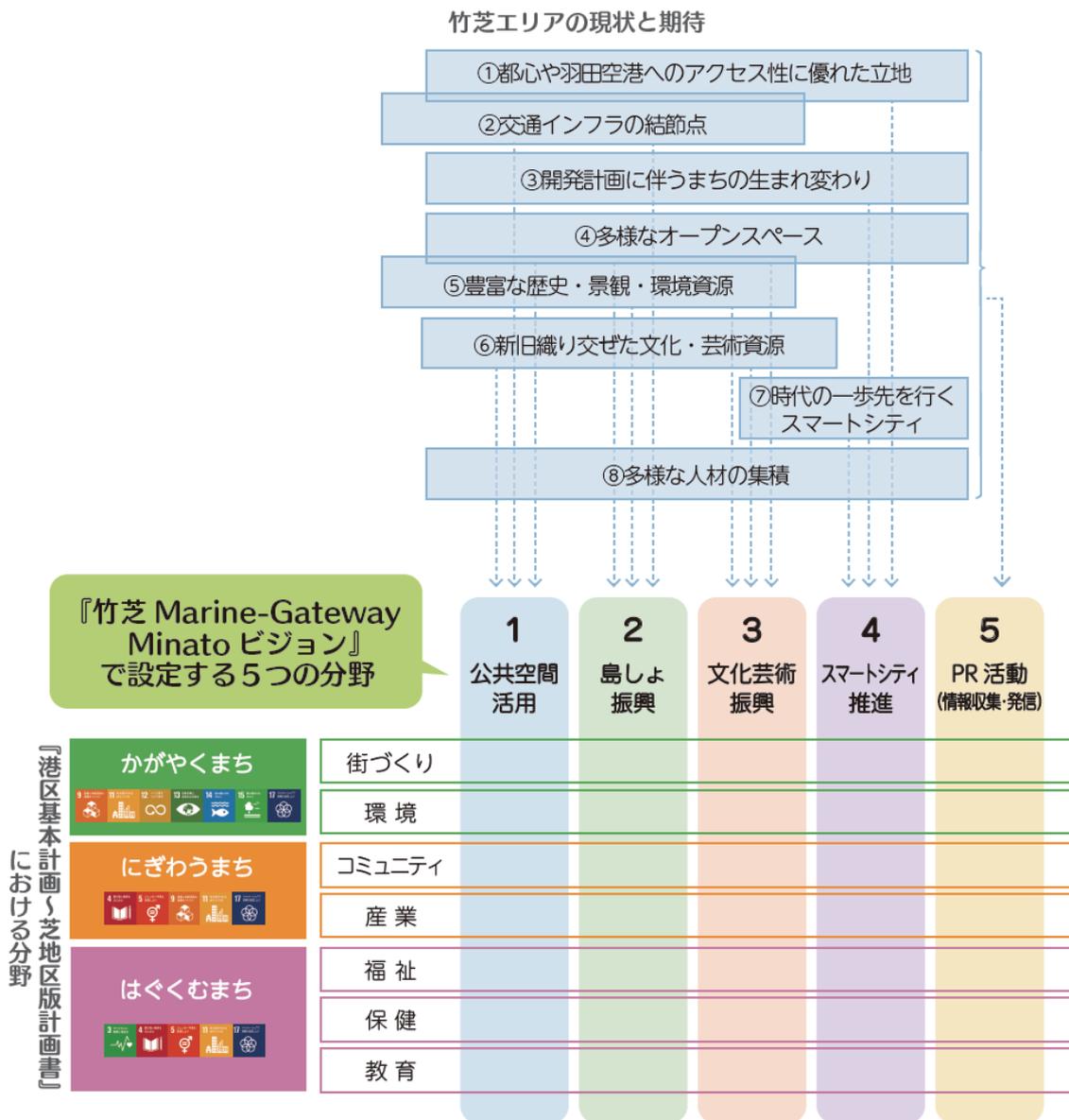
3

竹芝未来図

3-1 まちづくりの方向性

前章で整理した竹芝エリアの現状と期待を踏まえて、「港区基本計画～芝地区版計画書」における3つの政策の方向性に考慮しつつ、「公共空間活用」「島しょ振興」「文化芸術振興」「スマートシティ推進」「PR活動（情報収集・発信）」の5つの分野のワーキンググループ（以下、WG）を設定し、未来ビジョンについて検討しました。概ね20年後の令和22（2040）年頃に竹芝エリアが官民連携して目指すビジョン及び長期戦略の方向性を示します。

「港区基本計画」の政策はSDGs目標とも関連しており、MGMにおいても積極的にSDGsに資する取組を推進していきます。



Column 3 : SDGs とは

OSDGs

平成 27 (2015) 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」に記載された令和 12 (2030) 年までに達成すべき国際目標で、17 の目標から構成されています。経済、社会および環境における持続可能な開発をバランスの取れた方法で達成することを目指しています。

SDGs とは Sustainable Development Goals の略称です。

 <p>1 貧困をなくそう</p>	<p>目標1 貧困をなくそう</p> <p>あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ</p>	 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>目標2 飢餓をゼロに</p> <p>飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する</p>	 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>目標3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに</p> <p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>目標5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>目標6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>目標8 働きがいも経済成長も</p> <p>すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する</p>	 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>目標10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>国内および国家間の格差を是正する</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>目標11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</p>	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>目標12 つくる責任 つかう責任</p> <p>持続可能な消費と生産のパターンを確保する</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>目標13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る</p>	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>目標14 海の豊かさを守ろう</p> <p>海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p>	 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>目標15 陸の豊かさを守ろう</p> <p>陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p>
 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>目標16 平和と公正をすべての人に</p> <p>持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する</p>	 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>目標17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>	 <p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p>	

(1) 公共空間活用

①ビジョン

多様なプレイヤーにとって居心地のよい居場所があふれるまち

⇒訪れたい、過ごしたいまち

⇒チャンスを活かせる、使いたいまち

②長期戦略の方向性

- 人、モノ、情報の交流の場として「誰もが訪れたい、訪れたら時間を忘れて過ごしたいまち」にするため、竹芝エリアの特徴であるウォーターフロントを意識し、**都心で水辺を感じるまちづくり**を実現します。エリアの三方を囲む水辺空間が人に開かれた空間となるよう、官民が連携して検討を進めます。
- 「誰もがチャンスを活かせる、使いたいまち」として**多様なプレイヤーをまちに受け入れ、持続可能な賑わい創出**を図ります。**港区のテストベッド**として実証実験を繰り返しながら、竹芝エリアで新たな活動を生み出し続ける仕掛けづくりを進めます。
- 上記2点の取組をより活性化させ、賑わいの連続性を創出し回遊性を高めるべく、エリア内に存在するオープンスペースについて、それぞれの魅力やコンテクストを関係者で共有し、公有地と私有地をシームレスにつなぐ“公開空間”として位置づけます。**人々の多様な活動の受け皿となる魅力的な“公開空間”が数多く存在するまち**となるように、その使い方を提案し続けます。
- エリア内に存在する緑のネットワークを活かし、旧芝離宮恩賜庭園～竹芝みなと通り～スキップテラス（東京ポートシティ竹芝）～竹芝シアター通り～竹芝干潟～竹芝地区船着場（ウォーターズ竹芝前）を軸に**豊かな生態系サービス***の空間形成を行います。

※生態系サービス

私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定等、生物多様性から得られる恵みによって支えられており、これらの恵みのこと



(2) 島しょ振興

① ビジョン

東京諸島への玄関口としての雰囲気があふれるまち

⇒「竹芝↔東京諸島」と認知されるまち

⇒東京諸島とつながる・感じるまち

② 長期戦略の方向性

○東京諸島への玄関口としての認知を定着させることを目指し、

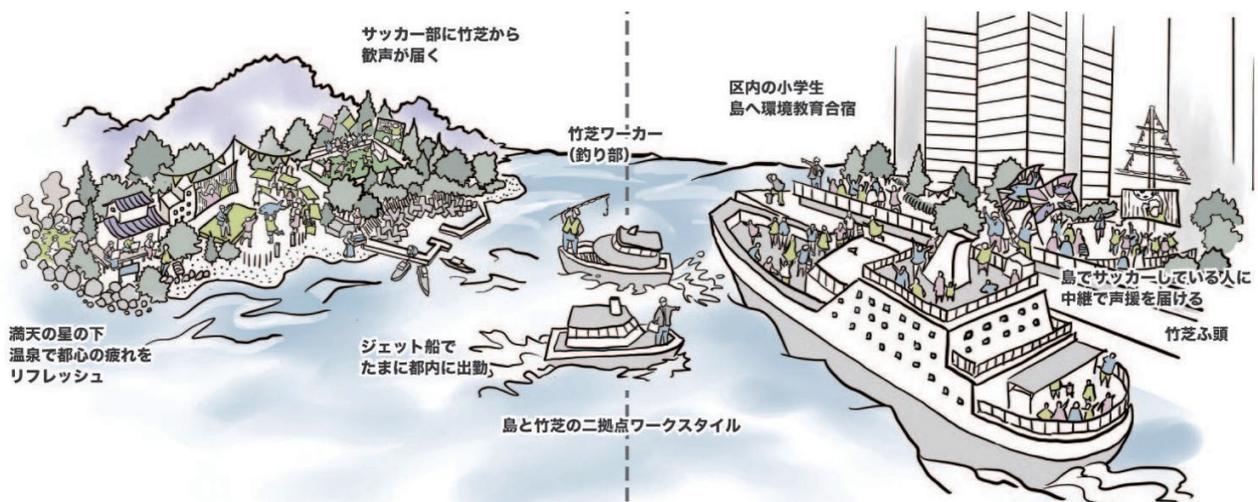
「東京諸島の魅力を発信する場と機会をつくる」

「島民の表現の場と機会をつくる」

「都心住民と島民の交流の場と機会をつくる」

ことを目的として、東京諸島の情報がエリア内にあふれ、竹芝ふ頭をはじめとした公開空間等において、島を感じることでできるイベント等が自然発生的に起こっている状態を保ちます。

○竹芝エリアと東京諸島をつなぐための仕掛けの提案や支援を行います。竹芝エリアで、島の人、モノ、情報の交換や交流を促すことにより、東京諸島とつながる・感じる場所であることを発信します。



(3) 文化芸術振興

①ビジョン

アートを通じて多様性に富んだ開かれたコミュニティを形成するまち

⇒アーティスト（表現者・体験者）が自由に表現できるまち

⇒子どもも大人も、誰でもアートを通じて交流し共生するまち

②長期戦略の方向性

○日常的に“文化芸術”に触れられる場をつくるための仕掛け、仕組みを創り、アートイベントやパフォーミングアーツ等の開催を通して「経験価値と体験価値」を提供します。小さくても、文化芸術に触れられる、常に何かが起こっている、そんな環境をつくり発信していきます。それらの文化芸術活動に触れることで、気づき生まれ、体験者の気づきの連鎖が、また新たな活動の誘発へとつながります。文化芸術の表現者たち（アーティスト）や、それに触れたい人たちが、居る・来るまちとなり、それが定着することで、多様性に富んだ“WELCOME なまちである”というメッセージを発信します。

○テーマは絞らず、様々な文化芸術の受け入れを可能とすることで、子どもから大人まで誰でも楽しめる空間を創出します。エリアの特性として、水辺はエッジの効いたものを、そしてゆくゆくは大門方面とつながり、歴史文化のまち（大門）から水辺先進エリア（竹芝）を文化芸術でつなげていきます。また共生社会実現のための中核拠点となる港区立「(仮称)文化芸術ホール（令和9（2027）年度開館予定）」とも連携し、アートを通じて、年齢や国籍、障害の有無等にかかわらず生き生きと集える街を目指し、文化芸術活動を推進します。



(4) スマートシティ推進

① ビジョン

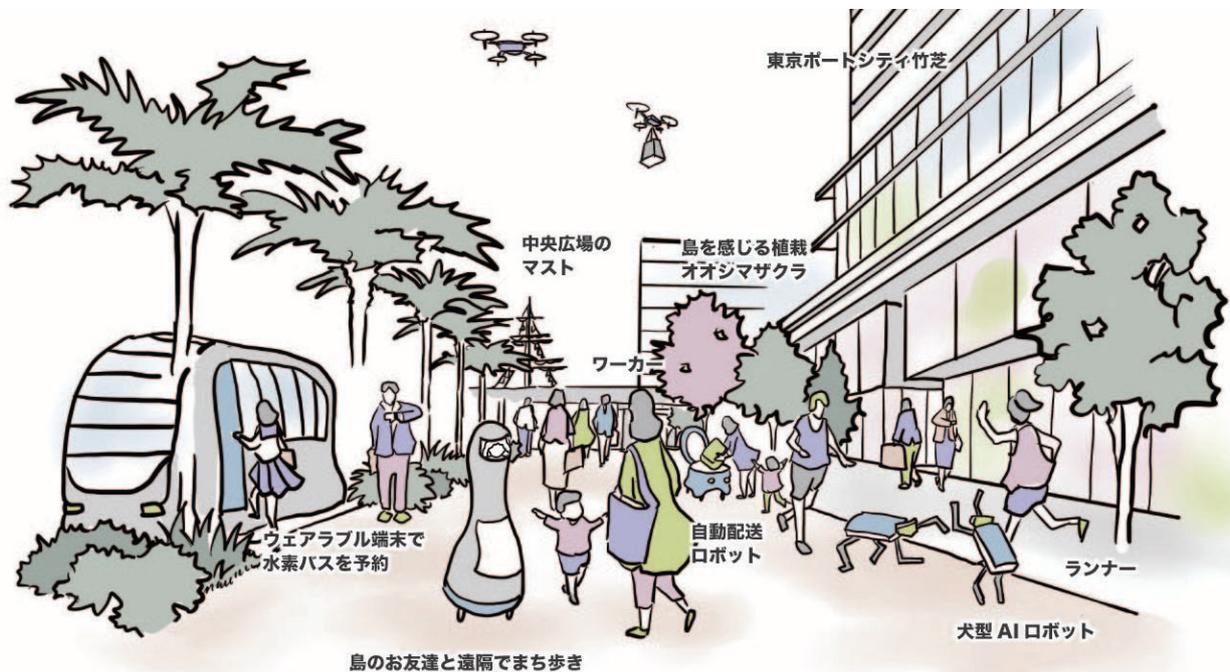
デジタルの力で進化し続けるチャレンジングなまち

⇒まちの課題を収集し、新たなイノベーションが絶えず創出されるまち

⇒テストフィールドとして多様なプレイヤーがチャレンジできるまち

② 長期戦略の方向性

- エリア内の就業者・居住者・来街者がより豊かな活動を行うことができるように、デジタルの力を活用したスマートシティを推進します。
- 東京を代表する「リアルスマートシティ」として進化し続けるまちになるため、民間主導のリアル課題解決型プロジェクトがあふれ、そのデジタルサービス等をエリア内の就業者・居住者・来街者が体感できるような仕掛けや提案を、エリア内外の事業者と連携し持続的に取り組みます。
- これらの取組を通じて、モビリティ（MaaS）や先進テック活用の実験・緩和を先導するエリアとしての地位を確立します。



(5) PR 活動（情報収集・発信）

①ビジョン

竹芝ファンによる“竹芝ブランド”が定着したまち

⇒認知度を高めるために連携した情報発信でつながるまち

⇒竹芝ファン（愛着を持ち異なる目的で複数回足を運んでくれる人）が広がるまち

②長期戦略の方向性

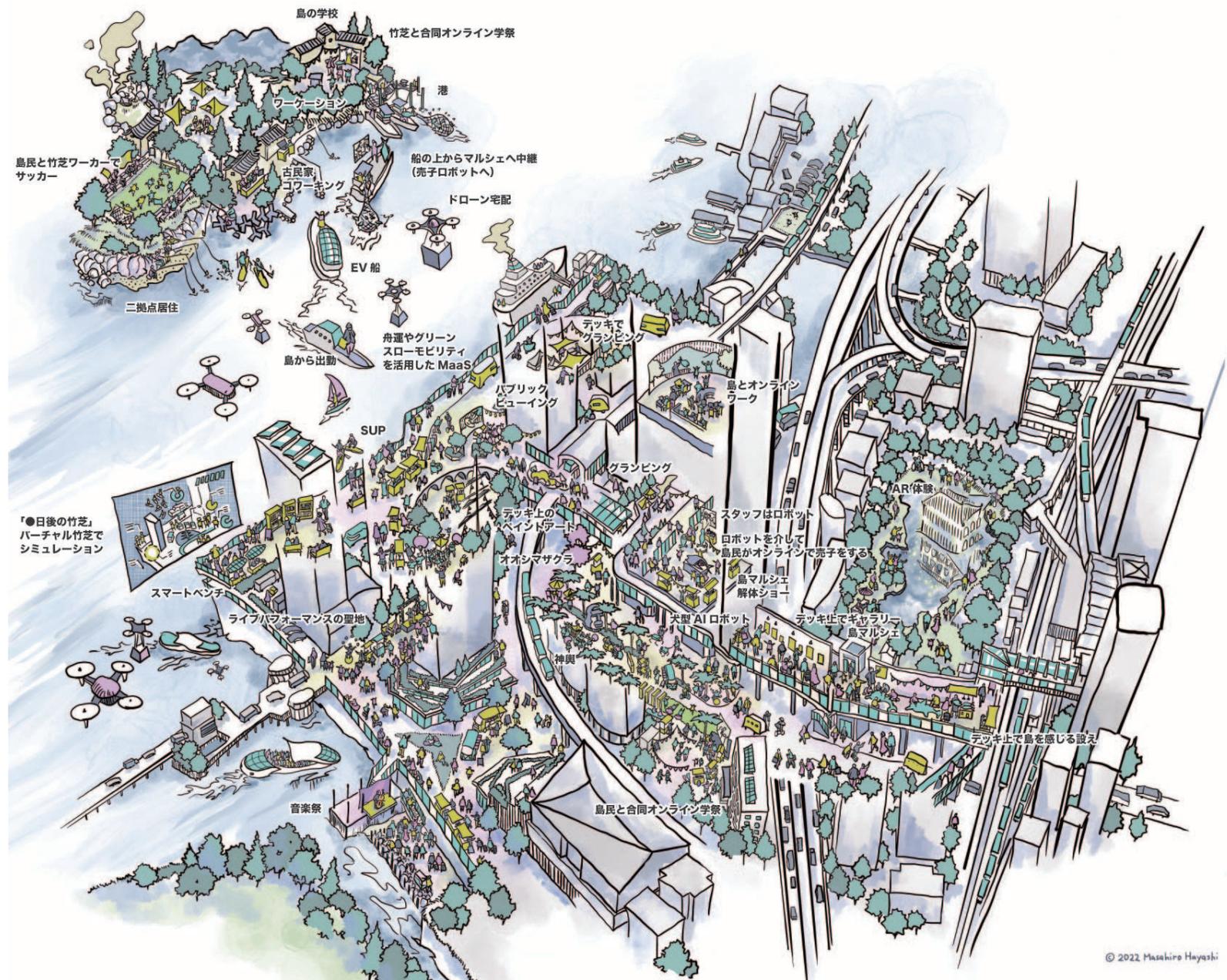
- 「竹芝を知ってもらう、認知度を向上させる」ために、エリア内の情報を収集し、エリア内外に対して発信します。エリア内におけるコンテンツが社会情勢に柔軟に対応しアップデートされることで、竹芝エリアが“東京を代表する世界的な水辺”として注目され続けるよう、関係者が連携し、持続的な情報発信に取り組みます。
- 竹芝エリアは、多くの方にとって“自分がまちの一部になれる雰囲気”を醸し出し、グローバル・ユニバーサル・バリアフリー・フレンドリーなまちとして多様な方々を受け入れる包容力をもちたいと考えます。そこに竹芝ブランドを醸成するため、“竹芝ファン”づくりを進めます。竹芝ファンとは、愛着を持ち、興味あるイベントや好きな飲食店等、様々な目的で複数回来街してくれる人です。これらのファンの方々との継続的なコミュニケーションを通じて、“竹芝ブランド”が築き上げられていくことを目指します。

3-2 めざすエリアの将来像

各分野のまちづくりの方向性に従い取り組むことにより見えてくる竹芝エリアの将来像は、次のとおりです。

ワクワクを超えるまち 世界的な水辺

○東京を代表する世界的な水辺の実現に向けて、各分野が相互に連携して取組を進めます。



© 2022 Masahiro Hayashi

4

竹芝未来図の実現に向けた施策とロードマップ

4-1 分野別施策

竹芝未来図の実現に向けて、各分野が相互に連携しながら取組を推進していきます。

(1) 公共空間活用

① 都心で水辺を感じるまちづくり

1) 「水辺」や「島」を感じられる仕掛けづくり

- ・世界的な水辺を意識した景観形成に努めます。
- ・このまちへ来た方々に対する WELCOME 感を醸成するため、浜松町駅付近での柱巻き看板等で「水辺」を想起させる設えをし、都心の水辺を感じるゲート機能を高めます。
- ・海側に進むにつれて「水辺」や「島」へのワクワク感を高めるために、旧芝離宮恩賜庭園に配慮して歩行者デッキ上に連続的にデジタルサイネージを設置し、竹芝や東京諸島の情報発信を行います。また、竹芝みなと通りや竹芝シアター通りでは、歩行者デッキの橋脚等へのプロジェクションマッピングの投影や柱巻き看板、街路灯へのフラッグ設置等で「水辺」や「島」を感じられる仕掛けづくりに取り組めます。
- ・島の植栽（オオシマザクラ、ソテツ、フェニックスロベレニー、ヤブツバキ等）を配置し、「島」を感じられる設えを検討していきます。
- ・それぞれの公開空間の魅力やコンテキストを関係者で共有し、竹芝ふ頭広場や竹芝地区船着場（ウォーターズ竹芝前）、竹芝干潟等を活用したアクティビティやイベントの開催をサポートし、水辺までの賑わいの連続性を創出します。

【取組の一例】

- ◇東京愛らんどフェア「島じまん」
- ◇竹芝夏ふえす
- ◇竹芝みなとフェスタ
- ◇竹芝干潟オープンデー
- ◇ナイトクルーズ船「Jicoo The Floating Bar」

⇒ 「(2) 島しょ振興」連携

2) 舟運を新たな移動手段として認知させ、東京湾岸の舟運拠点としての地位を確立

- ・JR 山手線の中で最も海に近い浜松町駅と竹芝地区船着場（ウォーターズ竹芝前）を結ぶことにより、竹芝エリアが「陸と海の結節点」として機能できるように舟運事業の活性化を推進します。

② 多様な活動の受け皿づくり

1) 公開空間を活用した事業・コトを起こすプレイヤーへの働きかけと受入れ

- ・まちを利用する人（来街者等）の利便性向上のため、ユーザー目線で活用しやすい環境づくりに努めます。
- ・多様なプレイヤーの受入れにあたって、竹芝エリアブランドの確立や魅力向上に資する基準や体制の構築を進めます。
- ・歩行者デッキ上のデジタルサイネージや、竹芝みなど通り沿いのフラッグの掲出ルールを定め、エリアの情報発信や広告枠の貸出を進めます。
- ・都市の公開空間の魅力やコンテクストを関係者で共有し、新しい楽しみ方を提案します。
- ・スマートシティ検討WGとも連携し、モビリティのポートや電源の設置を進めます。

⇒ 「(4) スマートシティ推進」連携

2) 滞在したくなる取組の推進

- ・竹芝エリアへ目的を持って来街した人（就業者、観劇者、東京諸島への旅行者や島民等）が予定よりも長く滞在したくなり、再来したくなるように、竹芝エリアへの愛着の醸成を目指す「Plus 1 hour プロジェクト」等を立上げ、公開空間を活用した水辺空間やまちを楽しむ仕掛けづくりを行います。
- ・船の発着時間前後に竹芝エリアを楽しむための取組として、都心住民と島民の交流や情報交換に繋がるような公開空間の活用法を検討します。

3) 社会情勢の変化に対応した新しい働き方・ライフスタイルの提案

- ・公開空間でのワーキングプレイス事業を推進します。

③ 賑わいの連続性の創出

1) 賑わい創出活動の推進

- ・将来的な歩行者天国等の実施を目指し、段階的に道路上でのオープンカフェ、キッチンカー等の実証実験を積み重ね、歩行者利便増進道路制度（ほこみち）等の制度を活用して、ウォークアブルで居心地の良い空間の創出を検討します。
- ・DMO 芝東京ベイと連携し、MICE メニューとして竹芝エリアをメディアジャックできる仕組みを検討します。

2) 「Power of 10+※」を意識したまちづくり

- ・竹芝みなと通りや竹芝シアター通り沿いにおける民有地の賑わいが道路空間へもつながるよう促し、賑わいの連続性を創出します。また、民有地をデザインするにあたって、広告物やまちなみ、植樹帯の統一感を出せるようなルールを策定する「竹芝デザインガイドライン」の検討を進めます。
- ・旧芝離宮恩賜庭園や竹芝ふ頭広場等の公開空間において、それぞれの空間の魅力やコンテクストを関係者で共有し、竹芝エリアらしいイベントを継続して行います。
- ・「Power of 10+」の手法を使って表情豊かな空間の形成に取り組み、多様な人々が集い楽しい時間の過ごし方や交流の生まれるコンテンツが集積したまちを目指します。

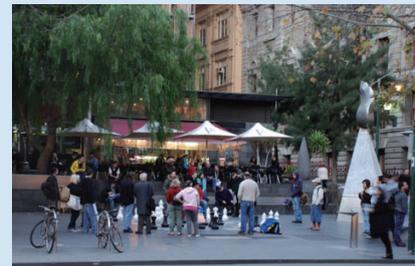
【取組の一例】

- ◇「水辺で乾杯」
- ◇ストリートピアノ
- ◇オープンカフェ、キッチンカー

Column4 : Power of 10+とは

ニューヨークのNPO法人のプレイスメイキングのツール。

都市が新しい住民やビジネスの投資をひきつけるには、最低 10 か所の人々が居たいと思う目的地（広場、大通り、ウォーターフロント、公園、美術館等）を有する必要があり、各目的地に 10 か所以上の場所（座る場所、遊ぶ場所、絵を描く場所、音楽を聴く場所、食べる場所、歴史を感じる場所、人に会う場所等）があることが必要とされている。



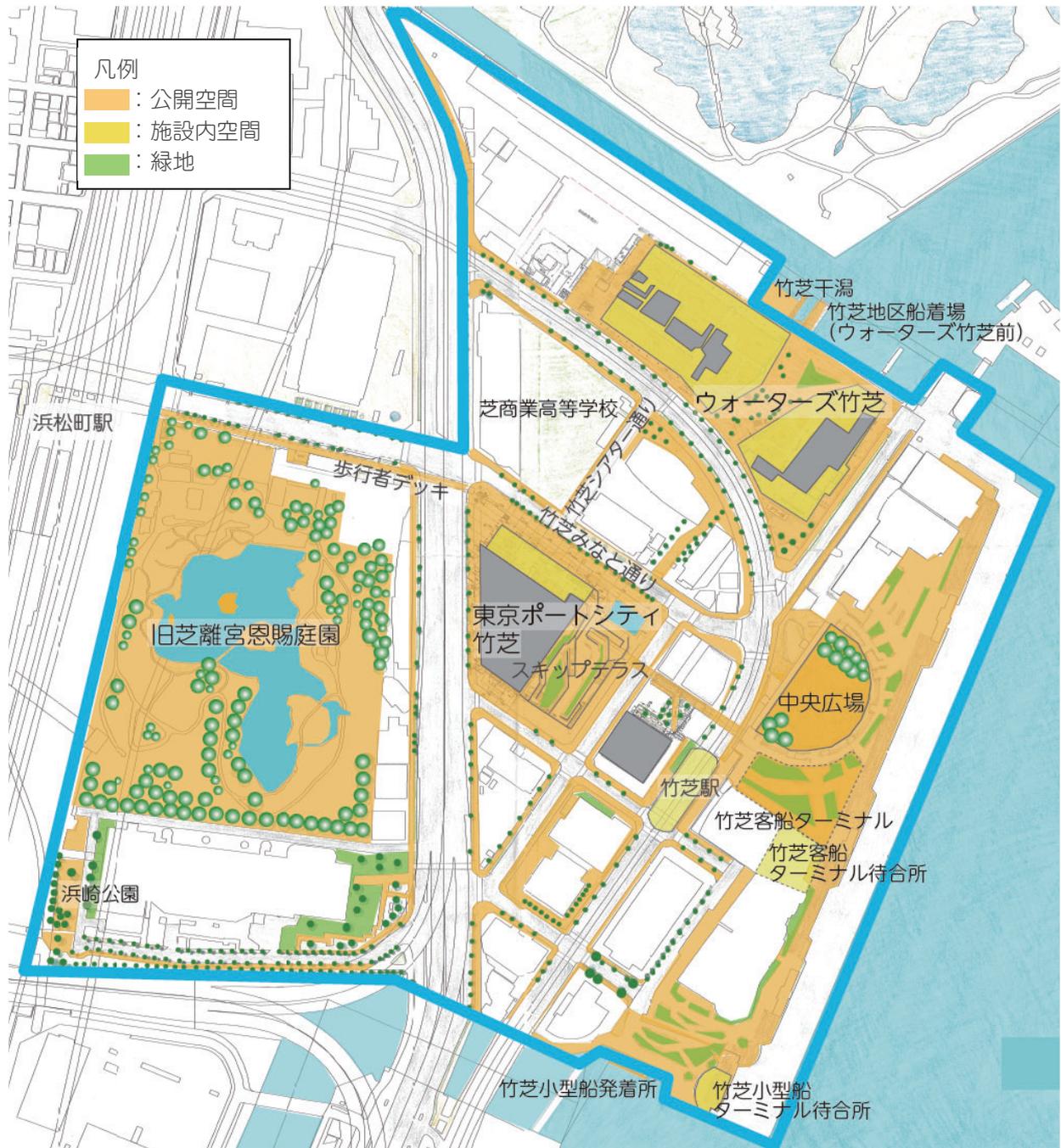
オーストラリア メルボルンの広場
一つのスペースを誰 1 人として同じ使い方をしていない

出典：The Power of 10+ <https://www.pps.org/article/the-power-of-10>

④ 環境に配慮した活動の推進

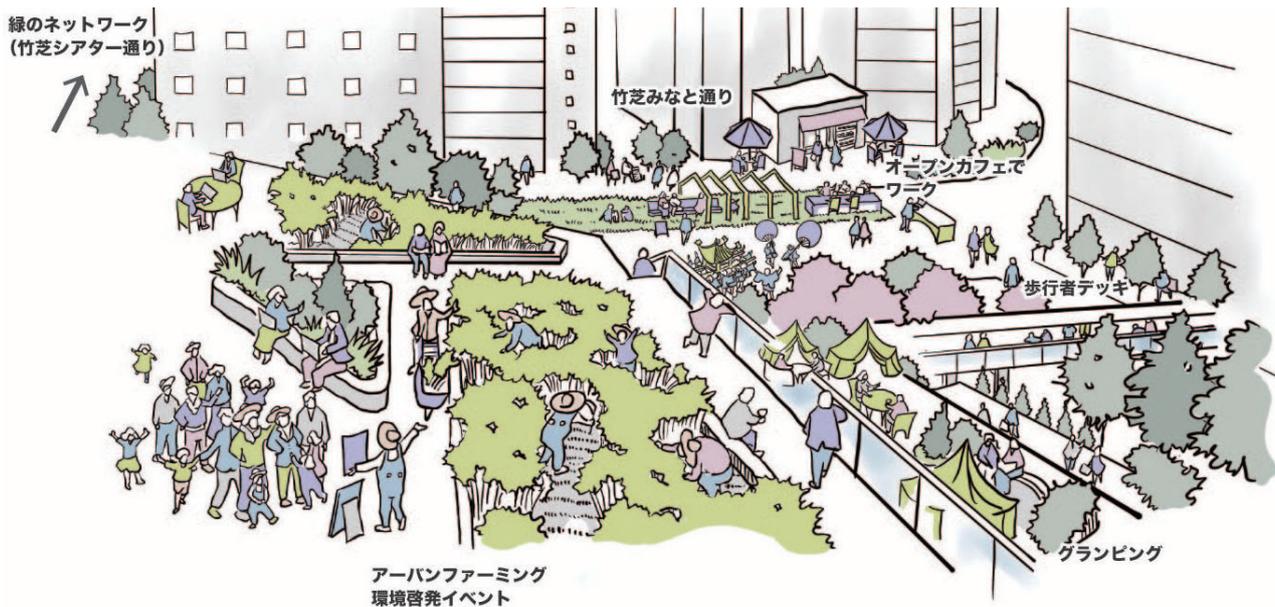
1) 公開空間を活かした環境教育を推進し、持続可能な世界を実現

- ・東京ポートシティ竹芝にて、雨水の地下浸透や景観向上・水質浄化が期待できる多機能型の緑地「レインガーデン」が整備されています。
- ・エリア内の企業や学生等の多様な参加者を巻き込んで、東京ポートシティ竹芝のスキップテラスや竹芝干潟等を活用した持続的な環境教育活動を推進していきます。
- ・このような SDGs の取組がまち全体に浸透し、連続する豊かな生態系ネットワークをつくり世界へ発信していきます。



エリア内の公開空間

国土地理院 白地図を利用して作成



これまで取り組んだこと《公共空間活用》

○竹芝夏ふえす

平成 27 (2015) 年から毎年夏に地域まちづくりの一環として、公開空間である竹芝ふ頭を活用した実証実験「竹芝夏ふえす」を開催しています。令和 2 (2020) 年には、コロナ禍において多くのイベントが中止となる中、初のオンライン開催となりました。



○旧芝離宮恩賜庭園のライトアップイベント

平成 30 (2018) 年と令和元 (2019) 年に文化財庭園の新たな魅力発信を目的として、旧芝離宮恩賜庭園にて「コンテンツ×デジタル」を取り入れた演出（プロジェクションマッピング等）によるナイトタイムコンテンツの創出を行いました。



○竹芝干潟

水辺に干潟を整備し、かつて東京湾に生息した多様な生き物の再生を目指した、都心では貴重な取組を行っています。教育・研究機関と連携しながら、東京湾の再生に向けモデルケースとなるような環境づくりの活動に取り組んでいます。



○東京ポートシティ竹芝のスキップテラス

水や緑を感じられるスキップテラスには、「雨・水・島・水田・香・菜園・蜂・空」の8つの景から成る「竹芝新八景」を展開し、生物とのふれあいや農体験などの環境教育等に取り組んでいます。



○竹芝地区船着場（ウォーターズ竹芝前）

令和2（2020）年9月にウォーターズ竹芝で「水辺で乾杯 2020」を開催しました。東京の新しい水辺時間の創出で、賑わいを目的とし、船着場を活用しました。チェロ演奏によって空間が変容し多くの方が文化度の高い水辺の自由時間を過ごしました。



○オープンカフェ

令和3（2021）年3月19日、20日に行われた第1回竹芝みなとフェスタに合わせて、コロナ禍での公開空間活用について実証実験として竹芝みなと通りにおいてオープンカフェを開催しました。



○WELCOME 感の醸成

令和3（2021）年3月に浜松町駅前の橋脚に水辺を想起するデザインの竹芝エリアを紹介する看板を設置しました。これにより、ウォーターフロントとしてのゲート機能が高まりました。



(2) 島しょ振興

① 都心と島とのマッチングの場づくり

1) 都心住民と島民の交流イベント

- ・竹芝エリアが東京諸島への玄関口であることの認知度を高めるため、島のことを「知りたい人」と「知ってほしい人」との交流の場となるイベント等を企画し、定期開催します。
- ・イベントの企画にあたっては、時代のトレンドを的確に読み取り、消費者ニーズに対応した効果の高い企画とすることが必要です。また、できるだけ島民の本音を引き出すことにより、島が抱える真の課題にアプローチすることも期待できます。

2) 物産展（島しょマルシェ、朝市）

- ・都心住民の「珍しい島の特産品が買える」というニーズと、島民の「販売したい」「直接消費者と交流したい」というニーズをマッチングさせる場となる物産展（島しょマルシェ、朝市）等を企画し、定期開催します。
- ・物産展は、都心住民にとって島とのタッチポイントとなる役割を担います。固定日での開催継続により、戦略的にリピーターを増やすとともに、「竹芝といえば東京諸島への玄関口」というイメージ醸成を図ります。

【取組の一例】

- ◇東京諸島「島しょマルシェ in 竹芝」
- ◇東京愛らんどフェア「島じまん」

3) 食育イベント

- ・次世代を担う子どもたち向けに、島の農水産物や特産品の特徴や育て方を知ってもらう講座とそれらを用いた料理を食べてもらう機会を提供することにより、島への興味を深める食育イベント等の開催を目指します。
- ・島の漁師・飲食店等を招いた魚のさばき方、島の農水産物や特産品を用いた料理教室等の講座も企画・検討します。
- ・これらの取組を通じて、都心住民と島民が交流できるプラットフォームとして機能することで、将来、島の生物・植生や島料理を現地で学ぶ企画へ発展するなど、竹芝エリアと島が密接なつながりを持つようになることを期待します。

【取組の一例】

- ◇都立芝商業高等学校 模擬株式会社「芝翔」による商品開発
- ◇区内小中学校へ教育支援プログラム
- ◇区内小中学校と島の小中学校との交流プログラム

4) 島ツアー

- ・東京諸島の魅力を伝えるとともに、東京諸島への玄関口である竹芝エリアを知ってもらうため、主に区民を対象とした島ツアーや、ターゲットを絞ったテーマ型島ツアーを企画・開催します。
- ・ツアーの企画を通じて、竹芝エリアと東京諸島の関係構築を図っていきます。

【取組の一例】

◇「みなと区民号」

5) その他

- ・都心と島を結ぶ商品開発（区による「港区×島しょ地域のオリジナルフレグランスづくり」等）を進めます。
- ・竹芝エリアの店舗において東京諸島の食材を扱う機会をつくり、特産品の魅力を発信します。

② 人材を受け入れる仕組みづくり

1) 子どもたちを通じた取組

- ・島と区内の子どもたちがつながる仕組みを構築し、子どもたちをきっかけに、多世代交流に発展する仕組みの構築を目指していきます。
- ・まずは、区内の子どもを対象とした島に興味をもってもらう食育イベント（「①3」食育イベント」参照）を企画・検討し、次段階で、区内の親子を対象とした島ツアー（「①4」島ツアー」参照）等へ発展することにより、段階的に都心と島がつながっていくことを期待します。

2) 就業者向けプログラム（島での研修・交流）

- ・エリア内立地企業だけでなく、国内の多くの企業との連携を図り、ワーケーションの啓発活動や、島における新規事業支援を進めることにより、竹芝エリアが、東京諸島と他の地域・人を密接につなげる媒介となる役割を担います。
- ・都心と島の両方で働くことによる新しい発想や生産性の向上をめざし、まずは、竹芝エリアの就業者等を対象にしたワーケーション、島の施設・空き家等を活用した働き方・働く環境整備（島サテライトオフィス、シェアハウス等）を提案します。
- ・さらに、島への移住者や二拠点居住者といった島での生活を実現しているキーパーソンとなる人材を見つけ、情報発信等において連携します。

【取組の一例】

◇式根島エリアマネジメントによるワーケーションの推進

3) 福祉・ウェルネスをテーマとした竹芝エリアと島をつなぐ取組

- ・人々の価値観の変化とともに、働き方改革やコロナ禍におけるテレワークの推進に伴って、「働き方を変えたい」、「島でゆったり暮らしたい」、「自然豊かな環境で心身を癒やしたい」という社会的ニーズが高くなっています。そこで、自然豊かな環境でストレスが軽減された島での生活の利点に着目し、「福祉」や「ウェルネス」の切り口で竹芝エリアと東京諸島をつなぐ仕組みの構築について検討します。

③ 情報共有・発信のためのプラットフォームづくり

1) 「ステキな竹芝」「ステキな東京諸島」を伝えるコンテンツづくり

- ・MGM のホームページ、竹芝公式 LINE、Instagram、Facebook、Twitter、その他 MGM 会員企業の SNS 等のツールを活用して、竹芝エリアと東京諸島に関する情報発信を積極的に行い、魅力向上に向けた取組を行います。また、竹芝エリアと東京諸島のつながりや魅力を伝える YouTuber 等との連携も検討します。

2) 連携のルールづくり

- ・竹芝エリアや東京諸島にかかわる各主体が情報発信する際に、相互にハッシュタグを付け合うようなルールをつくるなど、同じ情報がひとりでも多くの人に伝わるように相乗効果を高めるための連携体制を構築します。

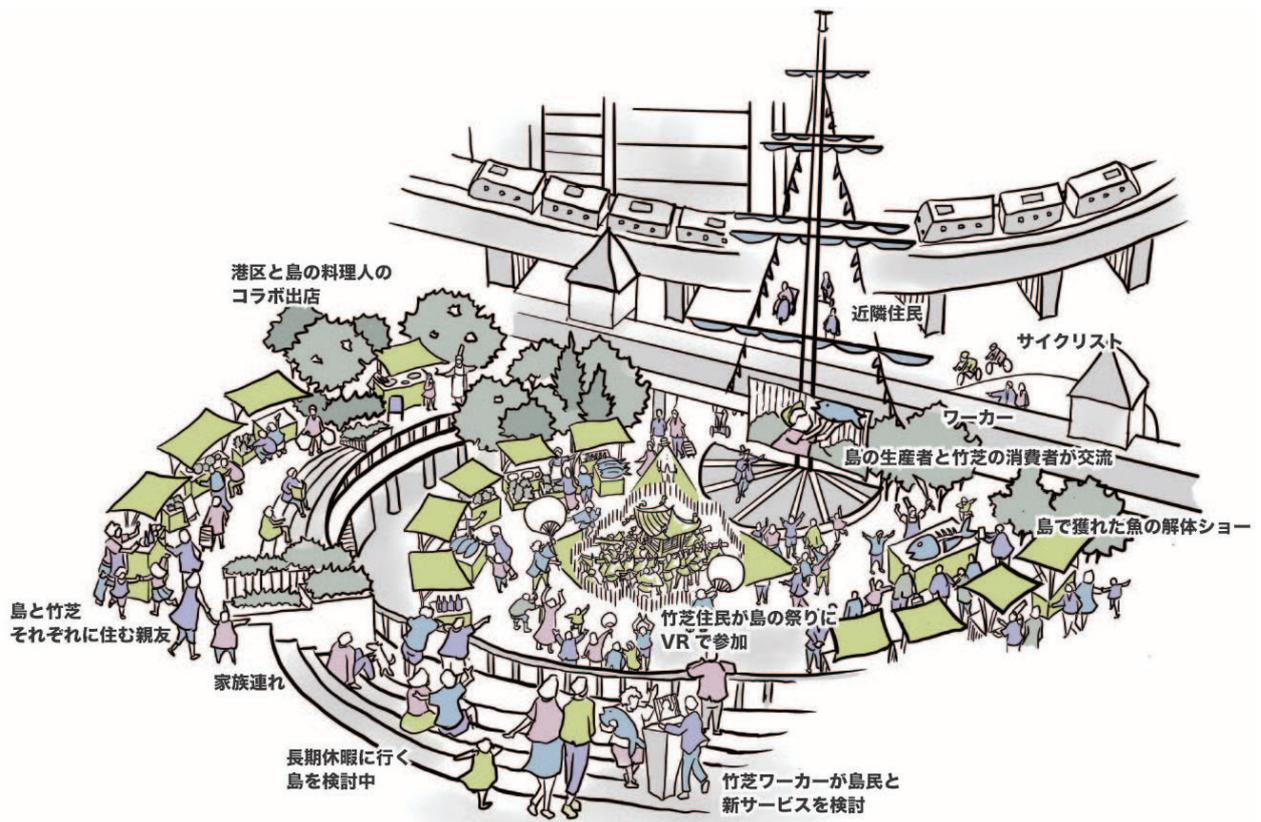
⇒ 「(5) PR 活動 (情報収集・発信)」連携

④ その他の島しょ振興のための取組

- ・竹芝エリアに来ると島が感じられる植栽 (オオシマザクラ、ソテツ、フェニックスロベレニ、ヤブツバキ等) の配置を検討していきます。
- ・浜松町駅に降り立ったとき、そこが東京諸島への玄関口であると感じられるようなハード整備も必要です。このため、浜松町駅から東京ポートシティ竹芝を経由して竹芝ふ頭まで続く歩行者デッキや竹芝みなと通りを活用して、島が感じられる設えについて検討していくことが必要と考えます。

【取組の一例】

- ◇路面等を活用したピクトグラム、フラッグによる演出・誘導
- ◇島の形状、船の大きさ等を表現するペイントによる演出



これまで取り組んだこと《島しょ振興》

○三宅島・新島特産品生産者トークショー

令和3（2021）年3月19日に開催された第1回竹芝みなとフェスタにて三宅島の明日葉農家、新島のくさや生産者に特産品の魅力を紹介して頂きました。その模様はYouTubeにて配信されました。



○東京諸島 島しょマルシェ in 竹芝

令和3（2021）年8月5日に東京ポートシティ竹芝のポートプラザにおいて第1回島しょマルシェを開催しました。その後隔月に開催されています。商品調達、継続開催のための人員や開催場所の確保の課題がありましたが、竹芝客船ターミナル内のアンテナショップ「東京愛らんど」のポップアップ店舗とすることで、円滑かつ柔軟な開催となりました。



(3) 文化芸術振興

① 場として提供する竹芝資源のアーティストへの発信

- 1) 資源を整理・共有する
 - ・エリア内において、アーティストが使用可能な施設や空間等を洗い出し、情報を集約し、共有します。
 - ・歩行者デッキや栈橋、干潟等の公開空間、旧芝離宮恩賜庭園等の活用を検討し、エリア全体で表現の場を提供することを目指します。
- 2) 場の提供方法を検討する
 - ・アーティストが利用しやすいように、どのようなことが出来る場所か、既にどのような設備があり使用が可能か、また使用機器の制限はあるか、活用事例を集めて発信します。
 - ・アート施設のナビゲーション等の Web サイトを構築し、積極的に発信することで、‘WELCOME’であることを伝え、より多くのアーティストの誘致を目指します。

② 文化芸術を体験する機会の提供

- 1) 連携してイベントを開催し、より多くの機会を提供する
 - ・竹芝音楽祭、竹芝神輿（だらだら祭り）、旧芝離宮恩賜庭園のライトアップイベント、まち歩き等、文化芸術に触れる・体験できるイベントを企画・開催します。
 - ・竹芝エリアらしさとして、デジタルアートにも取り組んでいきます。
 - ・栈橋や歩行者デッキを活用し、写真展や絵画コンクールの開催・展示等を行います。
- 2) 港区内小中高等学校、幼稚園、保育園と連携し、子どもたちに参加・体験してもらう
 - ・学校・先生方に現地を知ってもらい、教育の視点で使ってもらえるよう PR します。
 - ・絵画や写真コンテスト等を通して、より多くの子どもたちに文化芸術に楽しく触れる機会づくりを検討します。

③ 文化芸術を通じた協働

- 1) エリア内連携
 - ・都立芝商業高等学校、劇団四季等、エリア内の教育、文化団体と連携します。
 - ・場の提供において、エリア内全体利用の推進のため、アーティストパフォーマンススペースについての情報管理と窓口設置について検討します。
- 2) 周辺連携
 - ・経験価値と体験価値の共有に向け、MGM の他 4 つの分野と連携した企画(島しょ写真展等)を積極的に行います。
 - ・大学、専門家等の協力のもと、アートギャラリーの開催を企画します。

④ その他文化芸術活動振興のための取組

- ・竹芝エリアのまちづくりが経験価値と体験価値を提供し続けるために、まちの資源を発見する目的のワークショップ等を開催し、人材育成に努めます。



これまで取り組んだこと《文化芸術振興》

○竹芝まち歩き

令和3（2021）年3月19日、20日に行われた第1回竹芝みなとフェスタに合わせて、竹芝エリアの資源を知るまち歩きを開催しました。



○文化芸術トークショー

令和3（2021）年3月19日に行われた第1回竹芝みなとフェスタで、「アートが紡ぐまちづくり」と題したトークショーを実施しました。その模様はYouTubeにて配信されました。



(4) スマートシティ推進 (Smart City Takeshiba)

① デジタル技術とまちのデータを活用したまちづくりの推進

1) 最先端のテクノロジーをまち全体で活用するスマートシティのモデルケースの構築

- ・様々な事業者が活用できるエリア内のデータを収集した都市 OS や、次世代通信規格 (5G 等) や先端技術を活用したサービス等の実装に向けて官民が連携してモデルケースを構築し、竹芝エリアおよび周辺エリアの課題を解決するとともに、より豊かな生活を送ることができるサービス提供に取り組み続けます。

【取組の一例】

- ◇自動走行ロボットによる配送
- ◇舟運やグリーンスローモビリティを活用した MaaS
- ◇SNS を活用したデジタルエリアマネジメント (エリア情報発信)
- ◇エリアデータを活用したマーケティング (都立芝商業高等学校の授業連携等)

2) バーチャル竹芝のまちづくり活動での活用

- ・WG メンバーである東急不動産㈱とソフトバンク㈱は、2020 年度に竹芝エリアを 3D 空間上に表示したバーチャル竹芝を構築し、国土交通省から「3D 都市モデルを活用した民間サービス開発に向けた実証調査業務」を受託しました。
- ・今後、高潮や液状化等の災害リスクを抱える竹芝エリアでの避難訓練において、シミュレーション機能が付加されたバーチャル竹芝を活用することで、エリア内関係者で発災時に想定される混雑リスク等の情報を共有します。シミュレーションに応じた発災時の態勢を構築することで、安全・安心なまちづくりを推進します。
- ・まちのニーズに応えるために、様々な事業者が進めるサービス開発にバーチャル竹芝の環境を提供することを目指します。

【バーチャル竹芝を活用したサービスイメージ】

- ◇地域の防災訓練や啓発活動での活用が可能なまちの防災情報の可視化
- ◇インフラ情報 (道路損傷・5G 対応地域・エレベーター稼働状況・バリアフリー動線等) の可視化
- ◇コンテンツ・エンターテインメント業界と連携したサービス創出、SNS 等と連携して竹芝エリアの魅力をバーチャル上に集約した情報発信
- ◇人流シミュレーションによる地域活性化イベントでの混雑緩和施策の実施・検証

② テストフィールドの環境づくり

1) デジタルサービス開発の実証実験の場づくり

- ・竹芝エリアにおいて多様なプレイヤーがチャレンジできるよう、最先端のテクノロジー等を活用した幅広い実証実験の実施事業者を受け入れる体制づくりを行います。
- ・具体的には、MGM に参画する様々な会員とのマッチングや実証実験の場を提供することで、竹芝エリアでの新たなサービス開発を支援します。
- ・エリア内に設置された様々なデバイスから収集されるまちの情報を共有することで、竹芝エリアの更なる活性化を実現します。

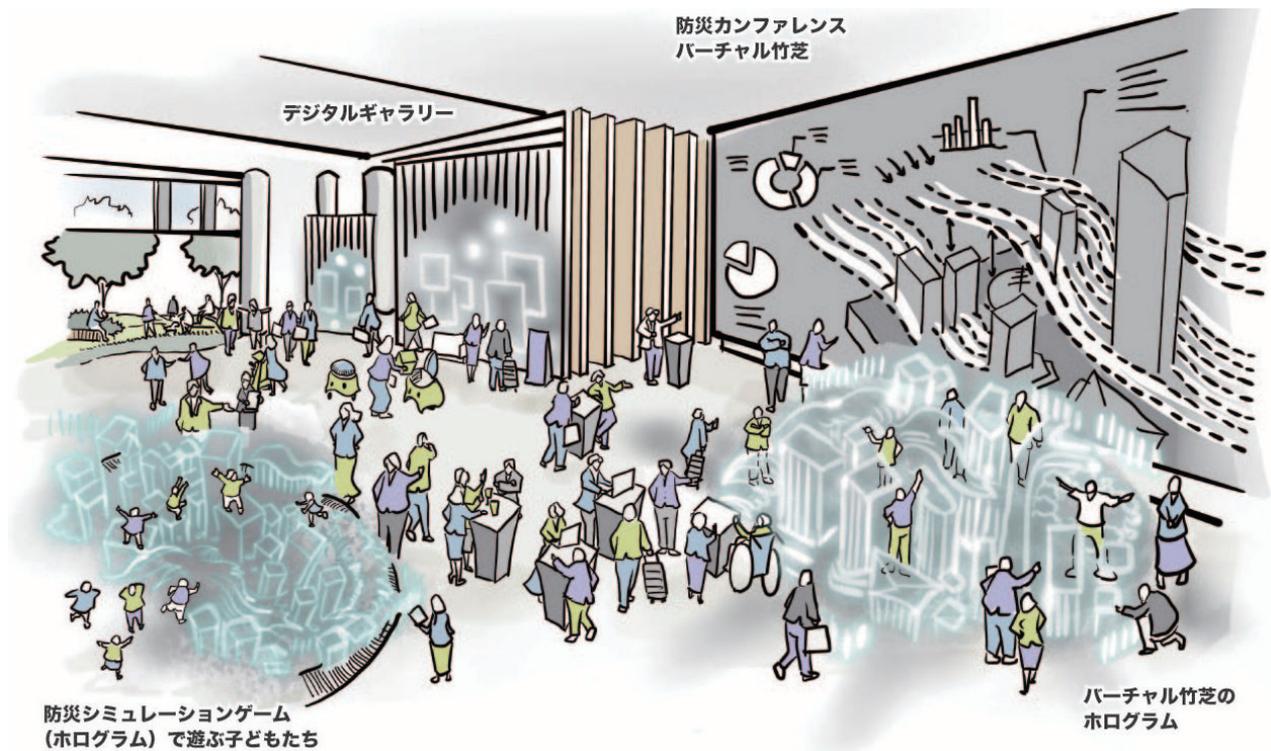
2) デジタルサービスを体験できるイベントの実施

- ・リビングラボを実現するために、地域関係者がデジタルサービスを体験できるイベントを実証実験の実施事業者といったデジタルサービスの提供者等と協働して開催します。

【取組の一例】

◇「ちょっと先のおもしろい未来」※令和元（2021）年7月に開催。毎年継続開催。





これまで取り組んだこと《スマートシティ推進》

○トークショー

令和3(2021)年3月19日に開催された第1回竹芝みなとフェスタにて、3D都市モデルを活用したスマートシティに取り組む企業の担当者によるトークショーを実施しました。その模様は YouTubeにて配信されました。



○令和3年度 国土交通省スマートシティモデルプロジェクト (仮添付写真)

バーチャル竹芝を活用した竹芝エリアでのスマートシティの取組「Smart City Takeshiba」が令和3年度 国土交通省スマートシティモデルプロジェクトに選定されました。バーチャル竹芝を活用した避難シミュレーションツールを開発して、今後、竹芝エリア内の企業・団体の防災担当者に共有を行い、発災時の対応に関する意見交換を行います。



(5) PR 活動（情報収集・発信）

① PR ツール共有による PR 連携

1) PR ツールの共有＜認知度向上＞

- ・より多くのターゲットに情報を届け、竹芝エリアの認知度を高めていくために、既存の PR ツール（ホームページや SNS、フラッグの媒体等）の情報を収集し、連携して発信していきます。
- ・竹芝エリアを知らない人に知ってもらう発信を、LINE 友だち登録者とのつながり、Instagram や Twitter の拡散、Facebook のコミュニティで連携して行っています。
- ・エリアを面的に活用した広告事業（フラッグ、デジタルサイネージ等）やロケーションサービス等を、利用者にわかりやすいメニューとして提供します。

2) 竹芝公式 LINE の活用＜竹芝ファンづくり＞

- ・イベント、スタンプラリー等で竹芝公式 LINE を積極的に活用し、友だち登録者数を増やすことで、竹芝ファンづくりにつなげていきます。

3) コミュニティリーダーの発掘＜竹芝ファンづくり＞

- ・エンターテインメント（観劇、体験）、島（旅行、釣り、ダイビング）等のコミュニティリーダーを発掘し、発信力を高めます。

② イベント連携

1) ファンが広がるイベントの開催＜竹芝ファンづくり＞

- ・季節感のあるイベント等を定期的で開催することで、イベントに参加するリピーター（＝竹芝ファン）の増加を目指します。竹芝ファンが自発的に発信者となるような、竹芝エリアらしい水辺や庭園等を活用したイベント（「竹芝音楽祭」「旧芝離宮恩賜庭園のライトアップイベント」等）を連携して開催します。

2) 企業・団体の出店交流＜竹芝ファンづくり＞

- ・竹芝エリアで事業を営んでいる、または竹芝エリアを活用した事業に興味関心のある企業・団体を対象に、竹芝エリアで開催されるイベント出店を誘致し、出店企業相互の交流を促します。

3) 竹芝みなとフェスタの継続実施＜認知度向上・竹芝ファンづくり＞

- ・「竹芝みなとフェスタ」を継続して開催し、関係者と連携し、MGM の活動を発信していきます。

③ (水辺等をテーマにした) 周辺連携

1) 水辺活用<認知度向上・竹芝ファンづくり>

- ・竹芝エリアの大きな資源である、「水辺（舟運、干潟等）」を活用して認知度向上、ファンづくりを広めていきます。
- ・品川区、大田区を皮切りに、舟運等の事業をきっかけに周辺地域との連携を図ります。

2) SDGs への取組<認知度向上・竹芝ファンづくり>

- ・mecc（みなと環境にやさしい事業者会議）等、地域の団体と連携し、SDGs をテーマにした取組を広げていきます。

これまで取り組んだこと《PR 活動（情報収集・発信）》

○舟運ツアー

令和3（2021）年3月19日、20日に開催された第1回竹芝みなとフェスタにて港区・港区観光協会の連携事業として舟運ツアーを行いました。竹芝エリアならではの観光資源を活かしてその魅力を発信しました。



○フラッグ

令和3（2021）年3月19日、20日に開催された第1回竹芝みなとフェスタに合わせて竹芝エリアを盛り上げる道路上フラッグの掲出をスタートさせました。デザインは慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科学生によるものです。



○LINE アンケート<竹芝公式 LINE>

令和3（2021）年3月19日、20日に開催された第1回竹芝みなとフェスタに合わせて竹芝エリアのイメージ調査アンケートをLINEにて実施しました。回答者には抽選で竹芝エリアを楽しめるプレゼントを用意しました。



Column5：活用する制度の紹介

公開空間を活用し、各分野の施策を実施していくための主な制度の概要

●道路協力団体制度

道路における身近な課題の解消や道路利用者へのニーズへのきめ細やかな対応などの業務に自発的に取り組む民間団体等を支援するものです。道路管理者と連携して業務を行う団体として法律上位置づけることにより、自発的な業務への取組を促進し、地域の実情に応じた道路管理の充実を図ろうとするものです。道路空間を活用した収益活動が可能で、その収益は道路の管理に還元します。

●歩行者利便増進道路制度（ほこみち）

道路管理者が歩行者利便増進道路を指定し、歩道等の中に歩行者の利便増進を図る空間を定めることが可能になります。誘導区域を設けることにより、オープンカフェや露店等の設置にかかる道路占用許可基準（無余地性）を緩和することのできる制度です。

●都市公園の占用許可特例制度

都市公園の占用は、一定の物件または施設によるものに限定され公衆の利用に著しい支障を及ぼさず、かつ必要やむを得ない場合等にしか許可されませんが、区市町村が、都市の居住者、来訪者、又は滞在者の利便の増進に寄与するために必要であるとして、都市再生整備計画に位置づけた施設等については、一定の要件を満たせば、公園の占用許可の特例を受けることができます。

●指定管理者制度

住民の福祉を増進する目的を持って、地方公共団体が設置し、住民の利用に供する施設の管理を、広く民間の団体に行わせる制度です。住民のニーズに、より効果的・効率的に対応し、住民サービスの向上を図ることができます。

●東京のしゃれた街並みづくり推進条例

個性豊かで魅力のあるしゃれた街並みづくりを進め、東京の魅力の向上に資する都条例です。この条例により、①都市計画に基づく規制緩和などを活用しながら共同建替等を促進する「街区再編まちづくり制度」、②地域の協議会が中心となって取り組む一体性のある街並み景観づくり活動を支援する「街並み景観づくり制度」、③地域の特性を生かし魅力を高めるまちづくり活動をおこなう団体を登録し、活動の促進を図る「まちづくり団体の登録制度」が整備されました。

●東京都屋外広告物条例第30条特例

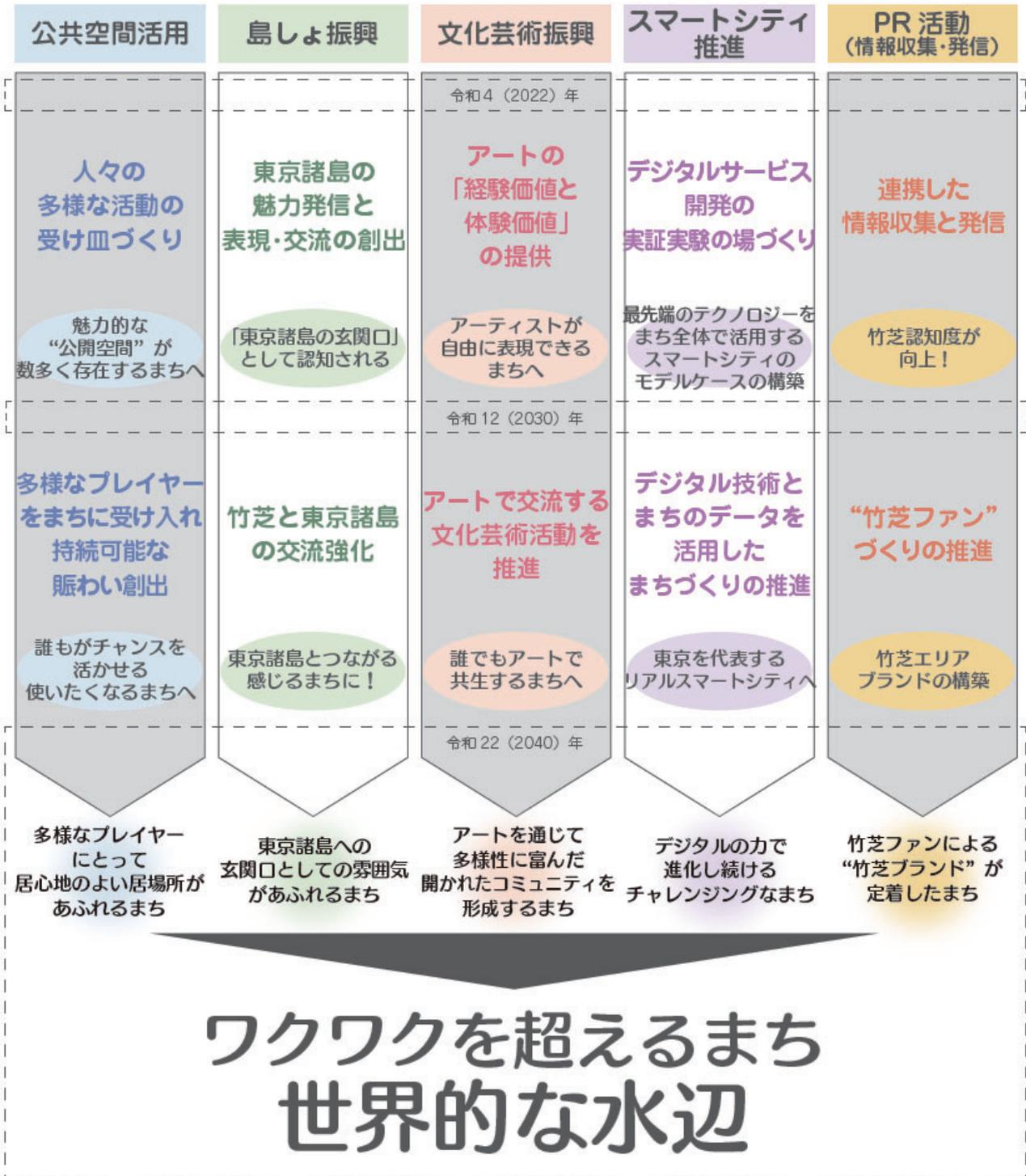
東京都知事は、景観又は風致の向上に資し、かつ、公衆に対する危害を及ぼす恐れのない広告物等で、特にやむを得ないと認めるものについては、当該広告物等の表示または設置を許可することができます。この場合においては、あらかじめ東京都広告物審議会の議を経るものとします。

●港区アドプト・プログラム制度

地域の方々と港区と一緒に道路・公園を維持管理する制度です。花壇や植栽の管理などを行うことで道路や公園が地域のコミュニティ活動の場となり、活動する方はもとより利用する方にも愛され親しまれていくことを目指しています。

4-2 ロードマップ

5つの分野別ロードマップは次のとおりです。初年度から令和12（2030）年頃、さらに10年後の令和22（2040）年頃と段階的に取り組んでいきます。



5

実施体制

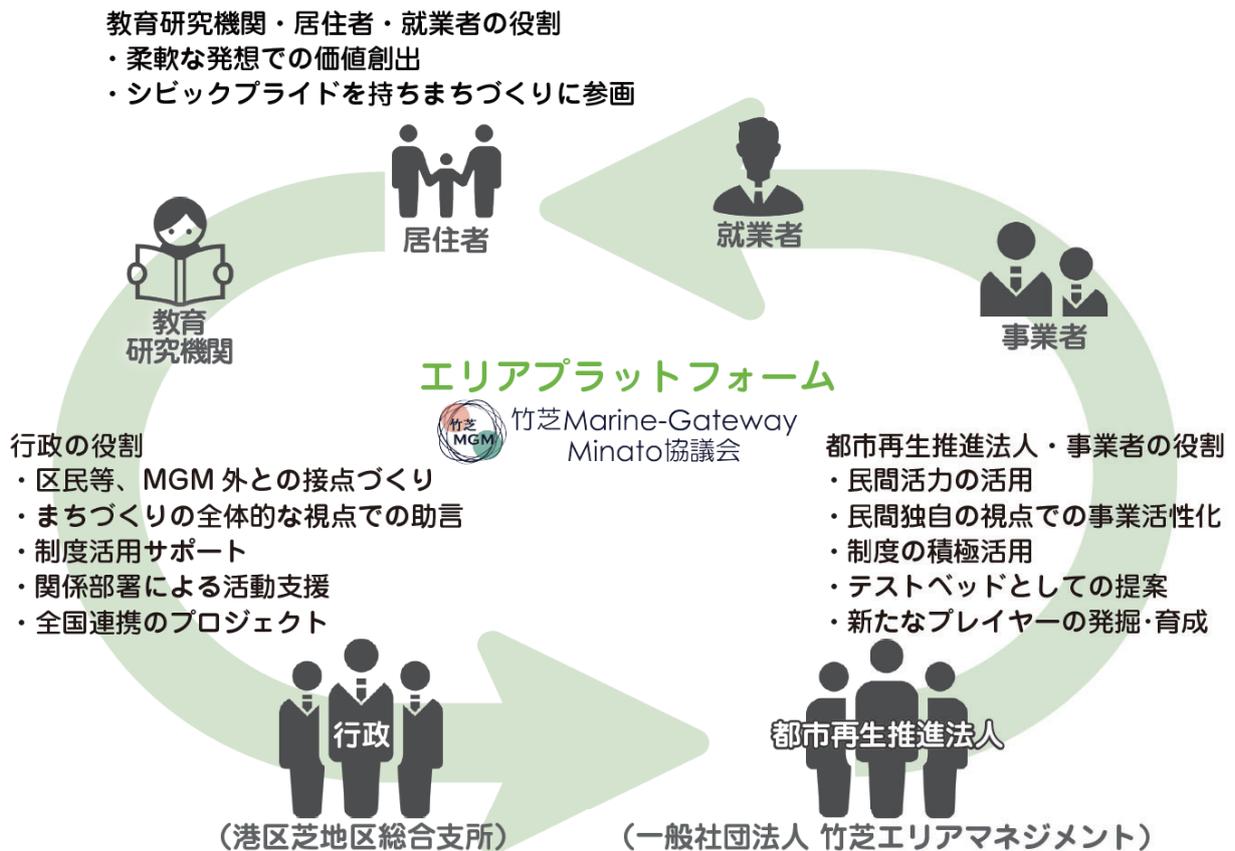
5-1 官民連携の推進体制と役割

本ビジョンの将来像を実現させるために、行政、事業者、就業者、居住者、教育研究機関がそれぞれの強みを活かしながら連携していくことが必要です。MGMは竹芝エリアの官民連携エリアプラットフォームとして、多様な人材を受け入れ、エリア内の情報共有を密に行い、協働していく役割を担います。

MGMメンバーの誰もが主体となり、相互に連携できる推進体制を構築するために、都市再生推進法人である一般社団法人竹芝エリアマネジメントが中心的役割を担い活動を支えます。

また、本ビジョンは概ね20年後の令和22（2040）年頃の実現を目標としていますが、刻々と変化する社会情勢に応じて、定期的にビジョンを見直すための検討・見直しシステムも構築します。その際には、外部の専門家や竹芝に関心のある方々の意見を伺いながらビジョン更新の検討を進めます。

■ビジョン推進体制



5-2 ビジョン実現のための持続可能な仕組み

ビジョンの実現に向けては、一つ一つの取組を着実に積み重ね、個別の取組に対する評価・改善を継続的に繰り返していくことが必要です。

それぞれの取組は、各主体が得るであろうベネフィットに見合う負担により実践していくことを基本とし、補助金を活用するなど MGM としての財源確保も検討を進めるものとします。

各プロジェクトの実施記録を蓄積し、共有しながら更にワクワクするようなプロジェクトへと発展させていきます。

変化する社会情勢に応じて WG 体制の枠組みを見直し、また、活動に携わった事業者や行政の担当者が代わっても MGM メンバーの組織内で本取組の意義や情報を共有しながら、ビジョンに向けての活動を推進していきます。

I. 上位計画に記載されている主な内容

■港区

計画名	基本方針	関連する主な取組
港区基本計画 令和 3(2021)年	<ul style="list-style-type: none"> ・区民一人ひとりが大切にされ、多様性を認め合い、港区への愛着と誇りを持って活発なコミュニティが醸成されているまち ・誰もが住みやすく、夢に向かって挑戦し、いきいきと輝きながら躍動するまち ・あらゆる危機に強く、誰もが安全に安心して暮らすことができ、環境負荷の少ない持続可能なまち ・進歩する先端技術が区民サービスに活用され、便利で快適な区民生活が実現している最先端のまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 参画と協働によるまちづくりの推進 ● 事業者の環境への配慮とまちづくりへの貢献 ● 誰にでも優しいバリアフリーのまちづくり ● 安全で安心して移動できる道路の整備 ● 交通まちづくりの推進（港区版 MaaS 導入に向けた検討など） ● 様々な媒体を活用した地域活動情報の共有によるコミュニティの活性化（PIAZZA などの活用） ● コミュニティ活動の機会の充実 ● 誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の創出 ● 地域で支え合う学びの推進 ● 障がい者が安心して暮らせる環境の整備
港区まちづくり マスタープラン 平成 29(2017)年	<p>将来都市像 「うるおいある国際生活都市」 目指すべきまちの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み続けられるまち ・个性的で多様な魅力があるまち ・世界に開かれた国際的なまち ・安全・安心なまち ・持続可能なまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートシティの実現に向けた取組を推進 ● 国際競争力の強化に資するビジネス交流拠点を形成 ● 地域の魅力・価値の向上を図るためエリアマネジメントの活動を推進 ● 地上・地下・デッキレベルで立体的な歩行空間を形成 ● 庭園やふ頭などの地域資源との繋がりに配慮した整備 ● 緑と水のネットワークの形成、生物多様性に資する自然回復の場づくり ● 地域と事業者が一体となったエリア防災の取組を推進 ● 自立分散型エネルギーシステムの導入、ICT を活用した CEMS の構築による、地域全体のエネルギー効率と防災性の向上 ● 観光案内機能等の観光インフラの整備
港区景観計画 平成 27(2015)年	<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑のネットワークを強化し、潤いある景観形成を進める ・歴史や文化を伝える景観を守り、生かす ・誰もが楽しく歩ける、にぎわいや風格のある通りを創る ・地域の個性を生かした魅力ある街並みを育む ・区民・企業等・行政の協働で景観形成を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 景観の骨格となる「水と緑の軸」を際立たせる ● 臨海部の開放感ある海辺空間を創出 ● 地域資源を巡るルートやネットワークを設定 ● 屋外広告物の規制・誘導やサイン整備、植樹等の緑化、路上工作物の修景 ● ランドマークを尊重した景観形成 ● 【水辺景観形成特別地区】 ● 東京の玄関口として新しい時代にふさわしい景観を形成 ● 【浜離宮・芝離宮庭園景観形成特別地区】 ● 歴史的・文化的な庭園からの眺望景観を保全
港区緑と水の総合計画 令和 3(2021)年	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す将来像 「緑と水と人がはぐくむ うるおいある国際生活都市」 	<ul style="list-style-type: none"> ● オープンスペースの緑を生かしてまちの魅力を高めよう ● 公園からまちのにぎわいをつくり出そう ● もてなしの街路樹を育てよう ● 親しみのもてる古川を取り戻そう ● 生物多様性に配慮した緑化
港区文化芸術振興プラン 令和 3(2021)年	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人と文化が共生し文化芸術を通じて皆の幸せをめざす世界に開かれた「文化の港」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実 ● 多様な主体間の協働による文化芸術振興 ● 文化芸術振興施策の推進に向けた基盤整備

【凡例】 ●：公共空間活用に関すること ●：島しょ振興に関すること
 ●：文化芸術振興に関すること ●：スマートシティ推進に関すること
 ●：PR 活動に関すること ●：その他

■港区

計画名	基本方針	関連する主な取組
第3次港区観光振興ビジョン [後期計画] 令和3(2021)年	・「訪れたいまち、憧れの港区」～多様な人と多彩な文化の交流を生み出す、価値ある都市観光の創造～	<ul style="list-style-type: none"> ● 快適で安全・安心な都市観光を満喫できる環境づくり ● 地域資源の魅力の再発見・再認識と回遊ルートの創出 ● 多様な主体との連携による観光振興と観光関連産業の育成 ● 統計データの分析・活用による市場動向の把握と効果的な観光マーケティングの実施 ● 戦略的なシティプロモーションの推進
港区地域防災計画 令和3(2021)年 *修正	・区、区民、事業者、防災関係機関等で連携を図ることにより、「自助」「共助」「公助」を実現し、区及び地域における防災関係機関がその全機能を有効に発揮して、その所掌に係る震災予防・震災応急対策及び震災復興を計画的に実施することにより、区の地域並びに区民の生命、身体及び財産を災害から保護する	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種災害時における避難勧告等の発令基準の周知及び伝達体制の整備 ● 帰宅困難者対策及び高層住宅の震災対策 ● 人のつながりにより地域防災力を向上させる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※港区地域防災計画については、災害対策基本法第40条の規定に基づき、毎年検討を加え、必要があると認めるときは修正している。各編により修正年が異なる。記載は最新の修正年度。</p> </div>
港区基本計画～芝地区版計画書 令和3(2021)年	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに作る安全・安心・快適で美しいまち ・多様なコミュニティが息づくまち ・地域の支え合いで健やかに生き生きと暮らせるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全で人にやさしい公共空間の整備 ● 地域の環境美化活動推進 ● 芝地区防災力向上プロジェクト ● 緑の保全と緑化の推進 ● 地域コミュニティ活動の支援・多様な交流の促進 ● 全国の自治体との連携 (ex.東京都島しょ地域) ● ● ● ● ● Arc Island (アークアイランド) 竹芝

【凡例】 ●：公共空間活用に関すること ●：島しょ振興に関すること
 ●：文化芸術振興に関すること ●：スマートシティ推進に関すること
 ●：PR活動に関すること ●：その他

■東京都

計画名	基本方針	関連する主な取組
「未来の東京」戦略 令和3(2021)年 東京都政策企画局	「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」の3つのシティが進化し、「成長」と「成熟」が両立した未来の東京を実現していく	<ul style="list-style-type: none"> ●東京ベイ eSG プロジェクト～東京湾から日本の未来を創り出す ●ゼロエミッション東京～水素社会実現プロジェクト ●「国際金融都市・東京」実現プロジェクト ●TOKYO Data Highway プロジェクト ●「みんなの居場所」創出プロジェクト ●人中心の歩きやすいまちづくりプロジェクト ●魅力ある観光コンテンツ創出プロジェクト
都市計画区域マスタープラン 令和3(2021)年 東京都都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な住まい方・働き方を支える都市づくり ・ゆとりある回遊性を支える都市施設 ・人が集まり、交流する、魅力と活力あふれる拠点形成 ・激甚災害にも負けない東京 ・緑と水の潤いある都市の構築 ・四季折々の美しい景観形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●デジタル技術を生かした都市づくりの推進 ●駅改良や歩行者空間の整備により交通結節機能や回遊性が向上 ●●羽田空港や島しょとの結節点にふさわしい観光の拠点として活力とにぎわいの拠点を形成 ●帰宅困難者対策、エネルギー連携などの防災対応力の強化 ●地域の魅力を向上するにぎわいの創出 【島しょ部】●二地域居住やサテライトオフィス、環境教育、スポーツなどの多様な機能も共存
東京都景観計画 平成30(2018)年 東京都都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・都民、事業者等との連携による首都にふさわしい景観の形成 ・交流の活発化・新たな産業の創出による東京のさらなる発展 ・歴史・文化の継承と新たな魅力の創出による東京の価値の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●風格、潤い、にぎわいのある街並みを形成 ●建築物の景観誘導や屋外広告物の規制などを行い、国際的な観光資源としてふさわしい庭園等の景観を保全 ●国際的にも注目されるような魅力的な「水の都」を形成 ●親水護岸や遊歩道の整備などと連携し、水辺に開かれた開発 ●防災都市づくり等と連携した景観形成 ●ライトアップされた景観資源と調和した回遊できる歩行者動線を整備
都市計画公園・緑地の整備方針 令和2(2020)年 東京都都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの形成 ・災害に強い都市の実現 ・良好な都市環境の形成 ・質の高い生活環境の創出 ・地域の資源を生かした個性ある地域づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●点在する公園や民間の緑の関係を強化 ●避難場所や災害対策の拠点となる公園・緑地の整備を推進 ●生物多様性の保全等に資する公園・緑地の整備 ●スポーツや文化活動等多様なレクリエーションの場となる公園・緑地の整備 ●歴史や文化、特色ある自然等を継承する公園・緑地の整備を促進
緑確保の総合的な方針 令和2(2020)年 東京都都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の緑を守る方針 ・まちづくりで緑を創出する取組 ・緑の確保を更に推進する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●確保すべき緑を明らかにする ●社会全体で緑を支える仕組みづくりを構築する ●まちづくり事業による緑の創出 ●まとまった緑が創出されるまちづくり事業（港区海岸一丁目・都市再生特別地区-新たに創出される緑化面積約 4,700 m²） ●都市開発諸制度等の活用による緑の保全・創出
東京都における文化財庭園の保存活用計画（旧芝離宮庭園） 平成30(2018)年 東京都建設局	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の景を鑑賞する回遊式庭園 ・天皇や数々の外国貴賓を歓待する舞台となった歴史的庭園 ・国際的なビジネス街として開発の進む竹芝地区で、江戸から今に至る歴史を伝える庭園 	<ul style="list-style-type: none"> ●この地域における文化財庭園としての総合的な価値の保存、継承に努める ●国内外の観光客をはじめ、近隣オフィスの勤務者等、新たな利用者も想定した充実した憩いや滞在が可能となる活用や運営に取り組む ●幅広い年齢層への普及啓発に努め、相互に意見交換を行うことで、庭園の愛好者を増やし、新たなサポーターへと成長していくように働きかけていく
東京文化ビジョン 平成27(2015)年 東京都生活文化局	<ul style="list-style-type: none"> ・東京独自の芸術文化が持つ多様性を発信する ・東京を舞台にあらゆる人々の交流と世界中の芸術家の創造活動を促進し、芸術文化の力を世界平和の実現につなげていく 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統と現代が共存・融合する東京の独自性と多様性を追求し、世界発信 ●多彩な文化拠点の魅力向上により、芸術文化都市東京の発信力を強化 ●あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤を構築 ●教育、福祉、地域振興等、社会や都市の課題に、芸術文化の力を活用 ●先端技術と芸術文化の融合により創造産業を発展させ、変革を創出

【凡例】 ●：公共空間活用に関すること ●：島しょ振興に関すること
●：文化芸術振興に関すること ●：スマートシティ推進に関すること
●：PR活動に関すること ●：その他

■東京都

計画名	基本方針	関連する主な取組
東京都防災プラン 2021 令和 3(2021)年 東京都総務局	・自助、共助の担い手である都民や地域、企業等の理解と協力、公助を担う都が一体となって、取組を推進することで安全・安心な東京の実現を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災分野における DX の推進 ～官民連携 DPF を通じたデジタルツインの構築・防災シミュレーションのイメージ ● 情報アクセシビリティの向上 ● 帰宅困難者対策オペレーションシステムの構築
東京港第 8 次改訂港湾計画 平成 26(2014)年 東京都港湾局	・東京港の港湾機能と都市機能を有機的に結合させ、「世界に誇る都市型総合港湾・東京港」を創造	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界とつながる国際貿易拠点港(物流機能の再構築) ● 世界から人が訪れる国際観光港湾 (MICE 等の強化) ● 世界をリードする環境先進港湾 (自然環境再生の推進など) ● 世界を魅了し未来を切り開くスポーツ都市東京 ● 世界に誇れる安全・安心なベイエリア

■東京都 (島しょ関係)

計画名	基本方針	関連する主な取組
東京都離島振興計画 平成 25(2013)年 東京都総務局	都と島しょ町村等が、振興の主体となる住民・企業・NPO等と連携して進めることにより、定住を促進し、自立的かつ持続的な発展へとつなげ、伊豆諸島を再生していく。 ・産業立島 ・安全・安心・利便性向上 ・環境立島 ・人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな視点の観光振興 ● 医療や教育、交通や情報通信等における本土との格差を是正 貴重な自然環境を保全 ● 新しい発想をもった UJI ターン者を積極的に受け入れる
小笠原諸島振興開発計画 令和元(2019)年 東京都総務局	・生活環境の整備・産業の振興による定住の促進 ・小笠原諸島内外の交通アクセスの整備による利便性の確保 ・世界自然遺産登録を踏まえた自然環境の保全・再生	<ul style="list-style-type: none"> ● 港湾施設利用者の利便性・快適性を高める施設整備 ● 様々なイベント、SNS 等を通じて継続的に発信することにより、観光客誘致 ● 魅力ある特産品の開発の促進

【凡例】 ● : 公共空間活用に関すること ● : 島しょ振興に関すること
 ● : 文化芸術振興に関すること ● : スマートシティ推進に関すること
 ● : PR 活動に関すること ● : その他

II. 竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会 [本ビジョン採択時点]

[正会員]

- 港区
- 一般社団法人 竹芝エリアマネジメント
- 一般社団法人 竹芝タウンデザイン
- 東京都立芝商業高等学校

[準会員]

- 株式会社アルペログランデ
- 鹿島建設株式会社
- 株式会社 CANVAS
- 一般社団法人 CiP 協議会
- ソフトバンク株式会社
- 竹芝地区まちづくり協議会
- 東海汽船株式会社
- 東急不動産株式会社
- 東京ガス株式会社
- 一般社団法人 東京諸島観光連盟
- 一般社団法人 東京諸島観光連盟 小笠原村観光局
- 株式会社東京テレポートセンター
- 公益財団法人 東京都公園協会
- 公益財団法人 東京都島しょ振興公社
- 東京都島嶼町村一部事務組合
- 東京都新島村

[賛助会員]

- カサイホールディングス株式会社
- 慶應義塾大学アート・センター
- 戸板女子短期大学
- 株式会社東急エージェンシー
- 東京商工会議所 港支部
- 一般社団法人 港区観光協会

[アドバイザー]

- 伊藤香織 (東京理科大学工学部建築学科教授)
- 林厚見 (SPEAC Inc.共同代表/東京 R 不動産ディレクター)
- 岩本唯史 (株式会社水辺総研代表)
- 泉山望威 (日本大学工学部建築学科助教)
- 金子裕 (株式会社 Life Design Application 代表)



竹芝Marine-Gateway
Minato協議会

<https://www.takekushima-marine-gateway.com>

事務局：一般社団法人竹芝エリアマネジメント